
平成 24 年度
大阪府学力・学習状況調査

池田市結果報告

分析結果から見える成果と課題

平成 24 年 9 月
池田市教育委員会

はじめに

本年度から中学校新学習指導要領が完全実施となり、新しい教育課程に基づいた 9 年間の教育が始まりました。新しい学習指導要領では知識基盤社会・国際社会で逞しく生きていく力を育むため、基礎的・基本的な知識や技能の習得とともに思考力・判断力・表現力等の育成をめざして、授業時数や教科書内容の増加がはかられています。

全国の児童生徒の学力や学習状況を把握し、各学校における教育活動や教育委員会、さらには文部科学省の教育施策を検証し、今後の改善に役立てるため、平成 19 年度に文部科学省による全国学力・学習状況調査が開始されました。平成 23 年度にこの調査が抽出になったことにより、大阪府による学力・学習状況調査が府内の小学校 6 年生、中学校 3 年生を対象に実施されるようになりました。2 年目の今年度は、6 月 12 日に実施され、小学生 51,734 人、中学生 46,046 人が参加しました。

池田市では、各小中学校において、地域に根ざした特色ある教育活動を展開するとともに、この間、大阪府教育委員会と目標を共有し、全ての池田の子どもたちの学力向上にむけ、各学校における授業づくりの工夫や指導方法の改善、学習規律の確立、家庭学習の習慣化の推進に取り組んでまいりました。

この調査の結果は、児童・生徒の学力や学習状況、生活状況の一部を示すものであり、全てを表すものではありませんが、池田市教育委員会では、本市児童生徒の調査結果を分析し、この報告書にまとめ、池田の子どもたちが一人ひとり、そのすばらしさをさらに伸ばし、不十分なところを改善していけるよう、分析から明らかになった成果と課題を今後の教育施策に活かしてまいります。また、各学校におきましても結果を考察し、今後の指導改善に役立ててまいります。

池田市では今、小中一貫教育実施に向けた取り組みを進めています。義務教育 9 年間のながれの中で系統性や連続性を大切にし、学習意欲の向上や学習習慣の確立とともに、豊かな心や健やかな体の育成に向けた指導を充実させ、子どもたちの多様な資質と能力をていねいに伸ばしていく取り組みを家庭・地域と連携しながら進めてまいります。

平成 24 年 9 月

池田市教育委員会

目 次

はじめに

I	池田市の学力調査結果概要	1
II	学力調査結果について	
1	小学校	
(1)	小学校国語結果分析と課題及び指導改善のポイント	2
(2)	小学校国語科正答数分布グラフ及びレーダーチャート	3
(3)	小学校国語科設問別結果概要	5
(4)	小学校算数科結果分析と課題及び指導改善のポイント	8
(5)	小学校算数科正答数分布グラフ及びレーダーチャート	9
(6)	小学校算数科設問別結果概要	11
2	中学校	
(1)	中学校国語科結果分析と課題及び指導改善のポイント	15
(2)	中学校国語科正答数分布グラフ及びレーダーチャート	16
(3)	中学校国語科設問別結果概要	18
(4)	中学校数学科結果分析と課題及び指導改善のポイント	22
(5)	中学校数学科正答数分布グラフ及びレーダーチャート	23
(6)	中学校数学科設問別結果概要	25
(7)	中学校英語科結果分析と課題及び指導改善のポイント	30
(8)	中学校英語科正答数分布グラフ及びレーダーチャート	31
(9)	中学校英語科設問別結果概要	32
III	児童生徒アンケート調査結果について	
1	小学校 児童アンケート調査結果	35
2	中学校 生徒アンケート調査結果	58

I 池田市の学力調査結果概要

学力調査結果の概要

小学校国語については、A問題（主として知識）では、全 18 問中 15 問の正答数を頂点とした高位層に厚い分布が見られ、B問題（主として活用）では、全 10 問中 8 問を頂点とした高位層寄りの分布になっていて、概ね理解は良好である。漢字の読み書きをはじめ基本的な学習内容についてはよく理解できているが、読み手を意識して表現することや、必要な内容を整理して分かりやすく説明するなど、書くことに課題が見られる。

小学校算数については、A問題では高位層寄りの分布で、多くの児童が出題された学習内容をよく理解していると言える。B問題では、全 15 問中 7 問の正答数を頂点とした拡散傾向が見られる分布になっている。全般的に、計算等の基礎的な学力は概ね良好であるが、文章の読み取りや考え方を論理的に記述することに課題が見られる。

中学校国語については、正答数はA問題では全 33 問中 24 問を頂点とした高位層寄りの分布となり、B問題では 9 問中 5 問を中心とする正規分布が見られる。漢字の読み書きや、文中より必要事項を読み取ることは概ねできているが、読み取った内容を簡潔にまとめ、わかりやすく記述するなど、書くことにおいて課題が見られる。

中学校数学については、A問題では全 31 問中 28 問の正答数を頂点として、高位層寄りの分布が見られ、計算問題をはじめ全体的に良好な結果となったが、「図形」領域の誤答率が高くなっている。B問題においては、下位層へ拡散し、二極分化の分布になっている。計算は概ねできているが、問題文や図表から情報を読み取ること、根拠を明示することや数学的表現を使って分かりやすく説明することに課題が残る。

英語については、30 問中 18 問の正答数がピークであるが、平成 23 年度の大阪府調査に比べると中下位層への拡散が目立つ。大阪府全体の結果も同様であり、各領域・観点における 24 年度の正答率の低下を見ると、昨年度に比べて設問の難度は高かったと判断できる。領域では「書くこと」、評価の観点では「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」と「表現の能力」において、また問題形式では「記述式」の設問において平均正答率は低下するが、対大阪府正答率平均比はいずれも高い値となっている。小学校外国語活動を通して培われた英語への慣れ親しみや音声面での理解、また中学校英語における学習意欲と基礎基本の習得を大切に学習指導の積み重ねの成果と言える。一方、問いの意味や意図を正確に捉え、必要な情報を聞き取ったり、読み取ったりして解答すること、学んだ英語を様々な場面・状況で活用することが要求される設問を苦手とする生徒が目立つ。基本的な語句や表現を正確に書いたり用いたりできる習熟と活用力向上のために、4 つの領域の関連性を重視した活動を通して、より豊富に英語に触れ、より多くの英語を使う活動が求められている。

Ⅱ 学力調査結果について

1 小学校

(1) 小学校国語結果分析と、課題及び指導改善のポイント

①国語A：主として知識

小学校国語Aの結果については、正答数は全18問中15問正答をピークとし、全体的に高位層に厚い分布となっている。

各領域については、「言語事項」では、漢字の読み書きについては、概ね理解できていると言えるが、ローマ字の習得や同音異義語の知識理解に課題が見られる。特にローマ字の表記については、該当学年（4年生）での指導以降も継続して指導する中で定着を図る必要がある。

「話すこと・聞くこと」の領域については、概ね理解できている。また、「書くこと」の領域については、内容の要点を端的に記述することについては概ね理解できているが、例文の構成や表現を確かめ適切な表記に訂正する問題について、誤答や無解答が見られる。読み手を意識して文章表現を工夫したり、文章の構成について推敲したりする学習を充実させ、書く力を伸ばす必要がある。

「読むこと」については、文章中の表現や叙述に沿って、登場人物の関係性を把握したり、時系列を意識して物語を読み取ったりする力に課題がある。登場人物や時系列について、表や図にまとめて整理するなど、ていねいに文章を読み取る指導を充実させる必要がある。

②国語B：主として活用

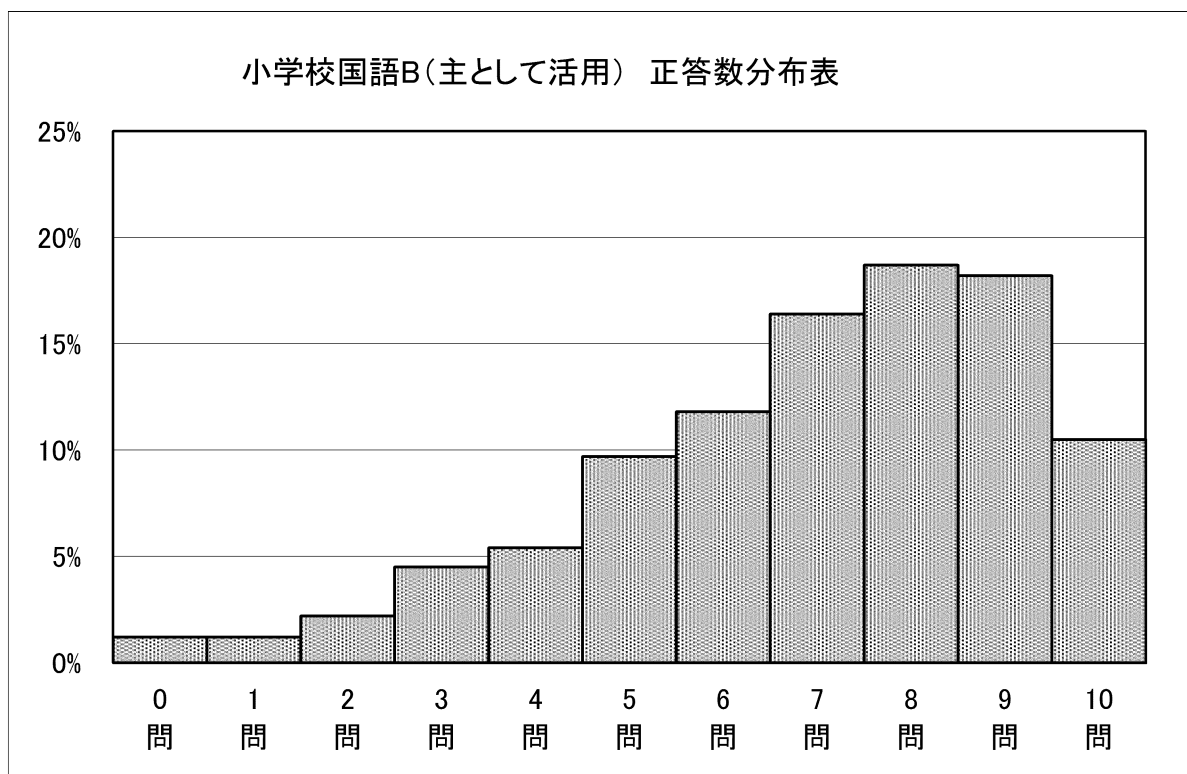
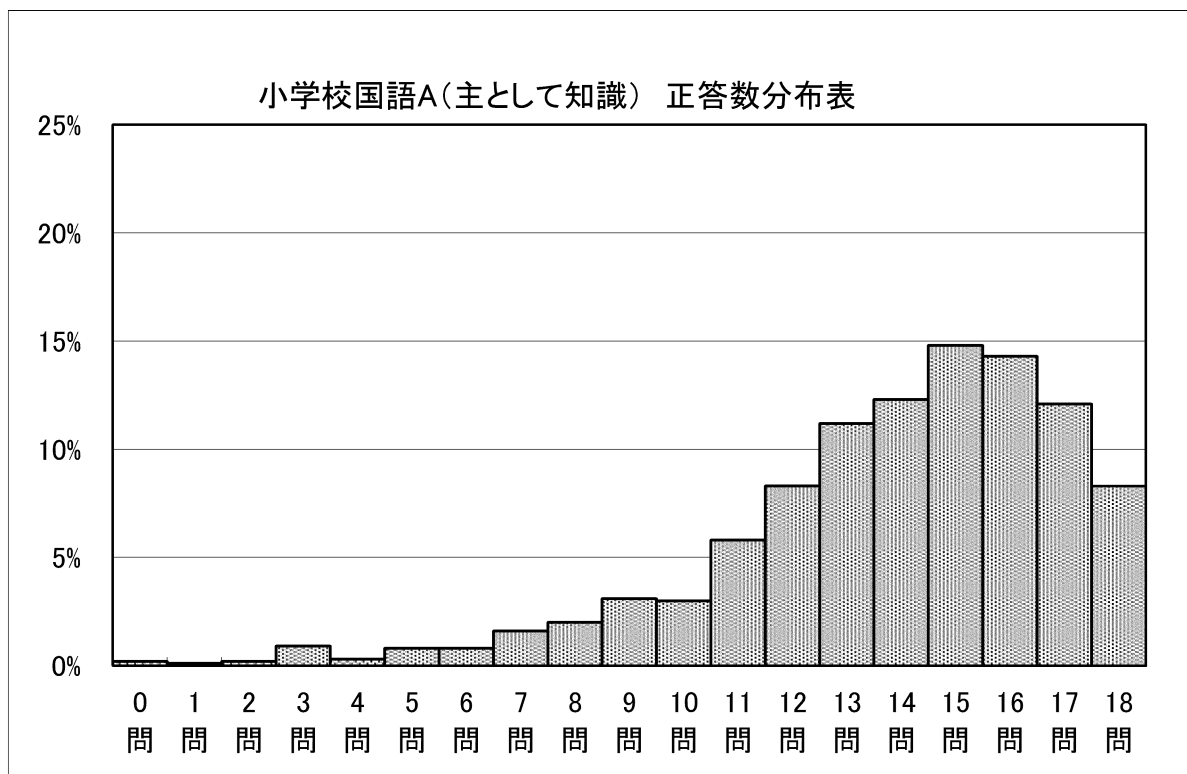
小学校国語Bの結果については、全10問中8問正答をピークとする全体として高位層寄りの正答数分布となっている。

「読むこと」の領域については、説明文の要旨を捉えその一部を要約することについては概ね理解できているが、文脈を捉え、文章中の適切な位置に一文を挿入する問題については、指示語の使い方を含めた指導を通しての習熟が必要である。

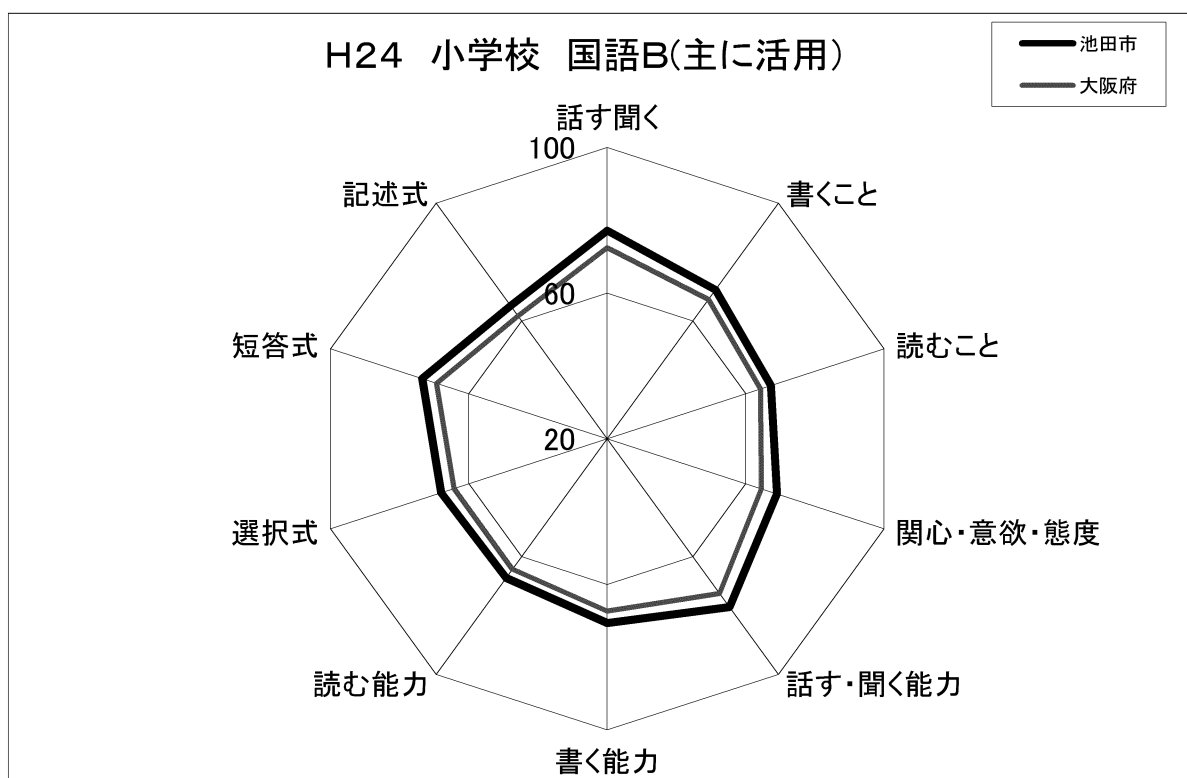
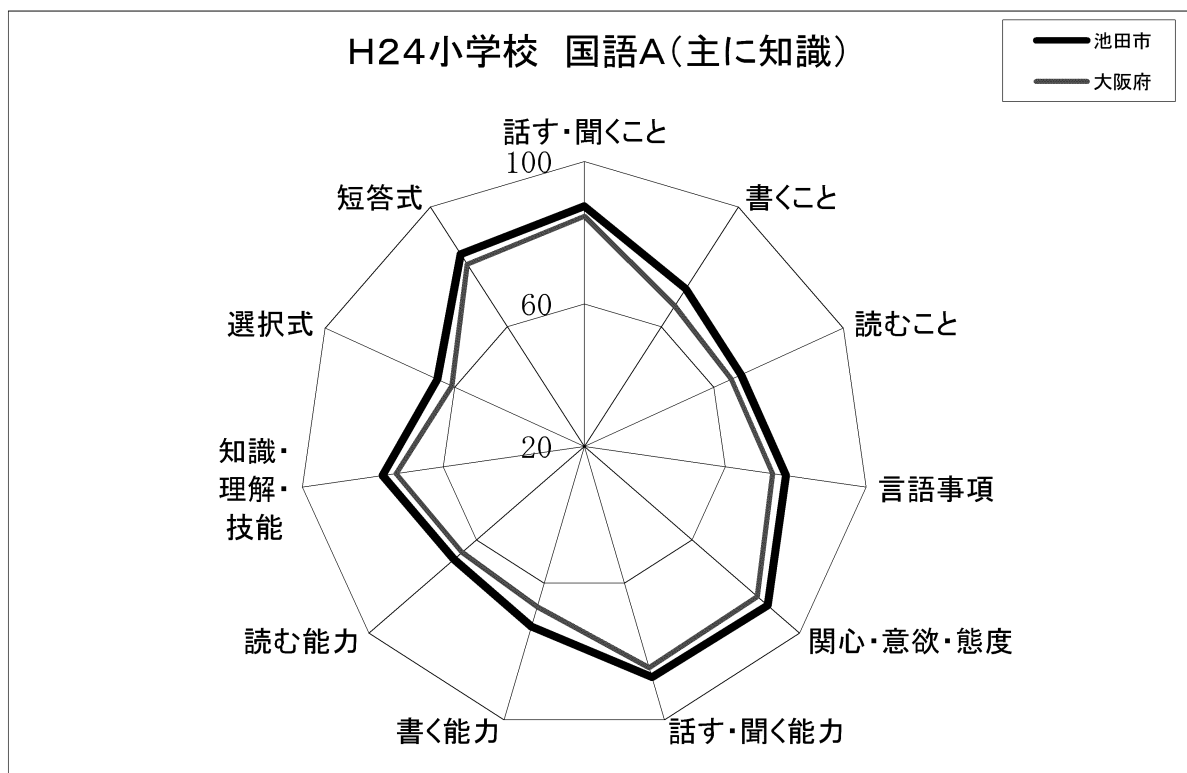
「話すこと・聞くこと」の領域については、個々の話し手の発言の意図を適切にとらえることはできているものの、司会者として、話し合い全体の趣旨や目的に沿って発言内容を適切に整理し計画的に話し合いを進める力については、課題が見られる。授業の中に積極的に話し合い活動の場面を取り入れるなど、指導法の工夫によって習熟を図る必要がある。

「書くこと・読むこと」の領域については、かべ新聞の構成を読み取る力に課題がある。また、複数の情報を結びつけて作者の意図を端的に表す小見出しを考えたりすることにも習熟が必要である。また、ポスターを作成する目的や意図に応じ、必要となる事項を整理して簡潔に書くことについても課題が見られる。目的に応じて、意味内容が簡潔に伝わるように、短い文章で表記する指導を行うことが必要である。

(2) 小学校国語 正答数分布グラフ及びレーダーチャート



領域・観点・問題形式別 レーダーチャート



(3) 小学校国語科設問別結果概要

①国語A：主として知識

設問番号	設問の概要	領域	正答率	結果概要
1 1 ア	文脈に即して漢字を正しく書く (およいだ)	言語事項	89.7	「泳いだ」(3年生)については、概ね正しく書くことができる。
2 1 イ	文脈に即して漢字を正しく書く (きかい)	言語事項	63.7	「機械」(4年生)については、誤答率が3割以上ある。特に「械」の誤答が2割あり、定着が十分でない。
3 1 ウ	文脈に即して漢字を正しく書く (きょうりょく)	言語事項	94.0	「協力」(4年生・1年生)については、よく書くことができる。
4 2 ア	文脈に即して漢字を正しく読む (率いて)	言語事項	91.1	「ひきいて」(5年生)については、正しく読むことができる。
5 2 イ	文脈に即して漢字を正しく読む (減少)	言語事項	94.2	「げんしょう」(5年生・2年生)については、正しく読むことができる。
6 2 ウ	文脈に即して漢字を正しく読む (易しい)	言語事項	85.5	「やさしい」(5年生)については、誤答率が約1割以上あり、さらなる定着をめざしたい。
7 3 1	ローマ字を読む (さっぽろ)	言語事項	82.9	誤答と無答が合わせて約2割あり、ローマ字を読むことについてさらなる定着をめざしたい。
8 3 2	ローマ字で書く (A k i t a)	言語事項	59.8	誤答率・無答率が合わせて約4割である。ローマ字での表記について定着が十分ではない。

設問番号	設問の概要	領域	正答率	結果概要
9 4 ア	正しい漢字を選択する (同音異義語：構成)	言語事項	76.3	「講」を選択したとおもわれる誤答が約2割である。形の似た漢字を使い分けの力を伸ばす必要がある。
10 4 イ	正しい漢字を選択する (同音異義語：関心)	言語事項	37.5	「感心」を選択したと思われる誤答が約6割ある。「関心」という言葉に不慣れな可能性がある。同音異義語について習熟を図る必要がある。
11 4 ニ	国語辞典を利用して調べる言葉を言い切りの形に直して書く	言語事項	88.7	「立てて」を、「立てる」という言い切りの形に直して書くことはほぼできている。
12 4 ミ	国語辞典を利用して、複数の意味の中から適切なものを選択する	言語事項	63.3	「望む」を選択した誤答が約3割ある。「臨む」の意味や使い方についての理解が不十分である。
13 5 一	スピーチの内容に即して、カードを並べかえる	話すこと 聞くこと	87.3	スピーチの構成と趣旨については、概ね理解できている。
14 5 ニ	スピーチの工夫として適切なものを選択する	話すこと 聞くこと	87.7	文章の特徴や筆者の工夫については、概ね理解できている。
15 6 一	聞いた話をもとに作り方のメモの中に入る適切な内容を書く	書くこと	89.1	話の要点を聞き取り、端的に表記することについては、おおむね理解できている。
16 6 ニ	作り方のメモの書き直し方を説明したものとして適切なものを選択する	書くこと	56.3	誤答が4割を超えている。文の構成や表現を確かめ、正しく推敲できていない。また、問題文を十分に理解せず解答している状況も見られる。
17 7	説明的な文章の題名として適切なものを選択する	読むこと	86.0	説明文の内容を理解し、適切な題名を選択することは概ねできている。
18 7	物語の一部を読んで、登場人物の心情として適切なものを選択する	読むこと	50.7	表現や叙述に即して、登場人物を整理しながら読み取る力に課題がある。また、時系列を意識して文章を読み取る力についても課題がある。

(3) 小学校国語科設問別結果概要

②国語B：主として活用

設問番号	設問の趣旨	領域	正答率	結果概要
1 1 一	説明文を読み、その内容をまとめた表の空欄に適する文を書く	書くこと 読むこと	79.5	説明文の要旨を捉え、その一部を要約することについては、概ね理解できている。
2 1 二	一文を入れるのにふさわしい場所を選択する	読むこと	62.8	文脈を捉え、適切な場所に一文を挿入する問題であるが、正答が約6割にとどまっている。指示語「その」の使いかたについて習熟が必要である。
3 2 一	司会として発言を聞き、内容を整理して書く	話すこと 聞くこと	65.9	話し合いの目的に合わない発言を見抜き理由を説明する問題である。誤答が3割以上あり、発言内容を適切に整理することに習熟する必要がある。
4 2 二	記録係として発言を聞き、意見と理由を整理して簡潔に書く	話すこと 聞くこと	88.5	話し合いの中で出た意見について、話し手の意図を適切にとらえ要約することは概ねできている。
5 2 三	司会の進め方の良いところの説明として適切なものを選択する	話すこと 聞くこと	77.1	誤答が2割以上ある。司会の発言の中の、「話し合いを整理する言葉」に着目して正答に結びつけることに課題がある。
6 3 一	かべ新聞の構成を説明したものとして適切なものを選択する	書くこと 読むこと	64.2	誤答が3割以上あり、新聞を構成している3要素中2要素が含まれた選択肢を安易に選択している。構成を的確に捉えるため、選択肢に含まれる要素を壁新聞と対応させて思考することが必要である。
7 3 二	かべ新聞の記事に、適切な小見出しを書く	書くこと	70.7	誤答と無答が約3割である。記事の内容に沿って伝えたいことを端的に表す「小見出し」を考える経験を積み重ねることが必要である。
8 3 三	三枚の写真の中から、新聞に入れる写真として適切なものを選択し、その写真を選択した理由を書く	書くこと 読むこと	83.2	資料を効果的に提示するために、伝えたいことと資料とを関係付け説明することは、概ねできている。
9 3 四	お知らせのポスターにぬけている情報を書く	書くこと	55.5	場所についての情報が不足していることについては気づいているが、「なにわ植物園」という具体的な名称を表記できていない誤答が2割ある。
10 4	三つのコンクールの中から、応募条件に合ったものを選び、そのコンクールを選択した理由を書く	読むこと	46.6	8割以上の児童が、応募条件に合ったコンクールを選択することはできている。ただ、選択した理由を明確にして説明する力に課題がある。

(4) 小学校算数結果分析と、課題及び指導改善のポイント

①算数A：主として知識

小学校算数Aの結果については、正答数は全18問中11問を頂点とし、全問正答を含め、高位層寄りの分布になっていて、「主として知識」面の算数科の学力は概ね良好である。

本調査結果からは、学力の二極化の兆候は見られないが、正答数が9問以下であった約2割の児童に対しては、個に応じた指導や学習段階に応じた繰り返し指導を充実させるなどして、基礎・基本の確かな定着に努めたい。

「数と計算」の領域では、整数、小数、分数の計算について、正答した児童の割合が高く、日ごろの指導の成果がみられる。しかし、概数の意味理解については課題があり、学習段階に応じた繰り返し指導や他教科での関連指導等、概念形成の定着を図る必要がある。

また、「数量関係」の領域において、四則が混合した式の計算や、割合の理解・グラフの読み取り等について課題がある。四則混合式については、日ごろの計算練習の積み重ねが重要であり、系統的に各学年で指導する必要がある。また、割合とグラフの関係性については、実際に割合をグラフに表す活動を授業に取り入れる等の工夫によって、他教科・学年において習熟を図る必要がある。

「量と測定」や「図形」の領域については、分度器やコンパス等、器具使用への習熟を図るとともに、立体の展開図や見取り図等の作図、円周の求め方等、より体験的に習熟させることが必要である。

②算数B：主として活用

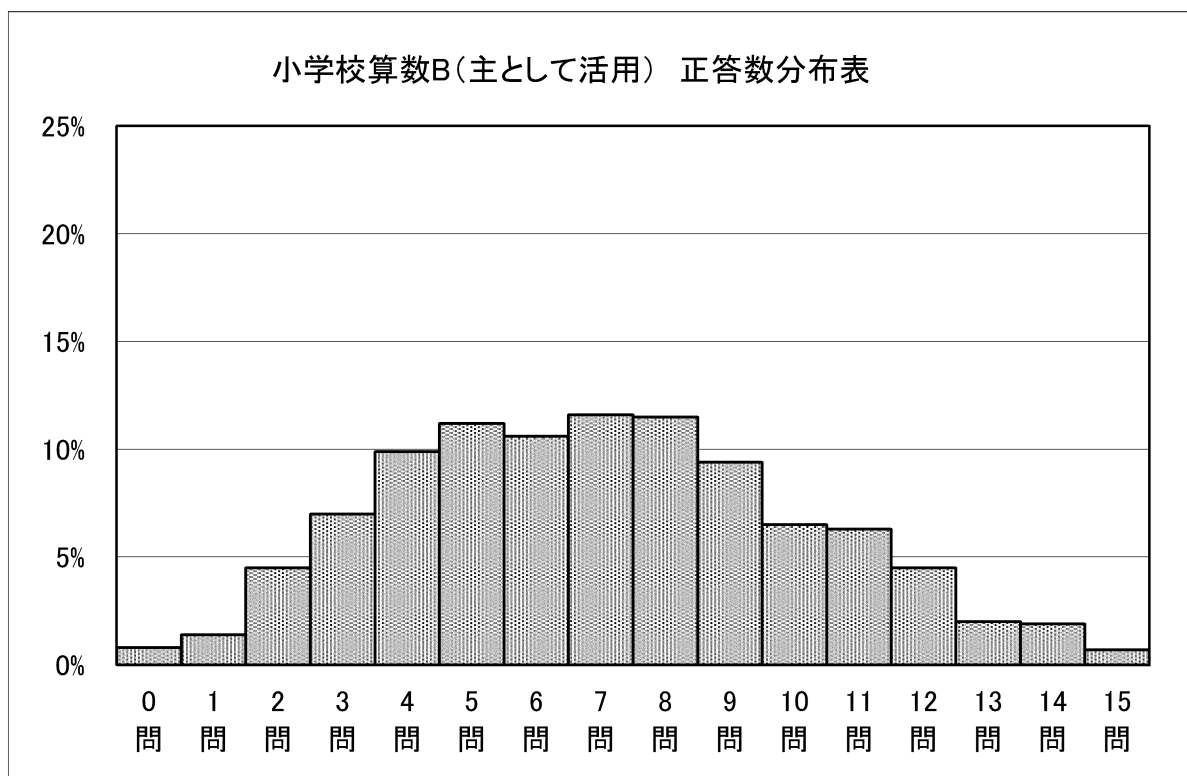
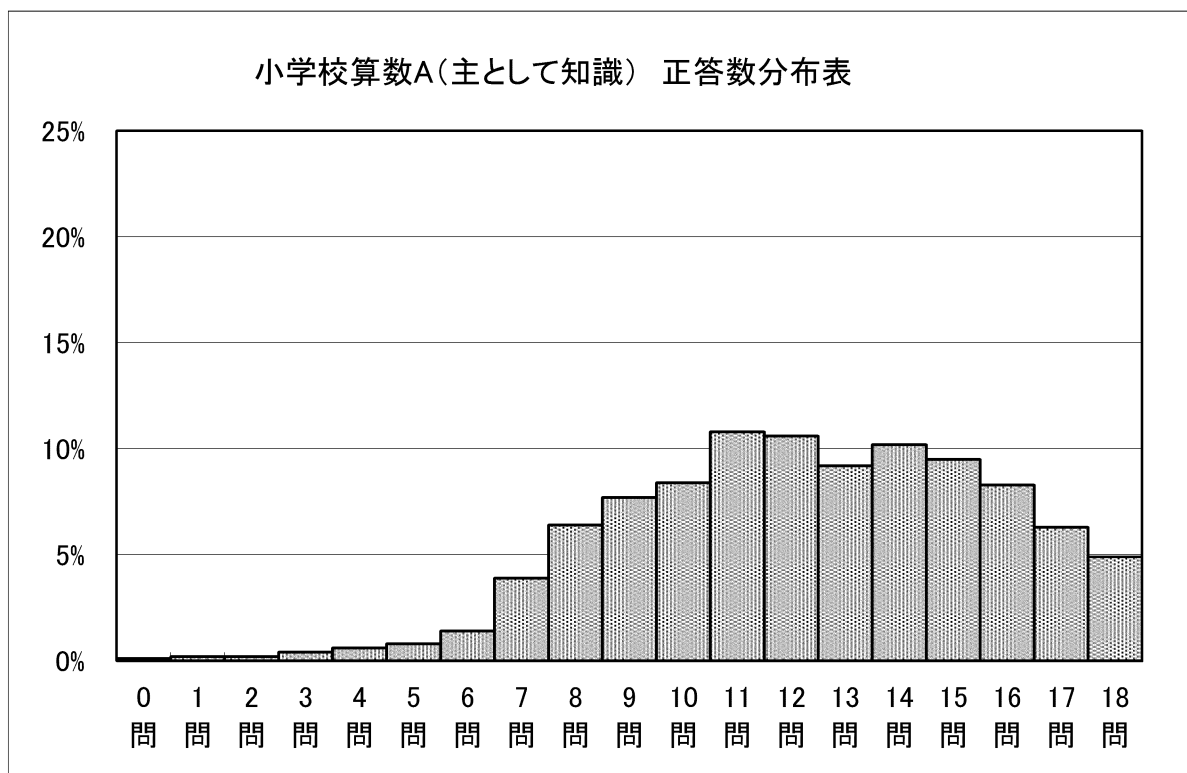
小学校算数Bの結果については、全15問中7問を頂点とした低位層寄りの分布になっている。

二極化傾向は見られないが、児童間に学力の差が見られる。正答数が5問以下の児童が約4割存在し、少人数指導や習熟度別指導等、個に応じたきめ細やかな指導を充実させ、思考力の向上を図る必要がある。

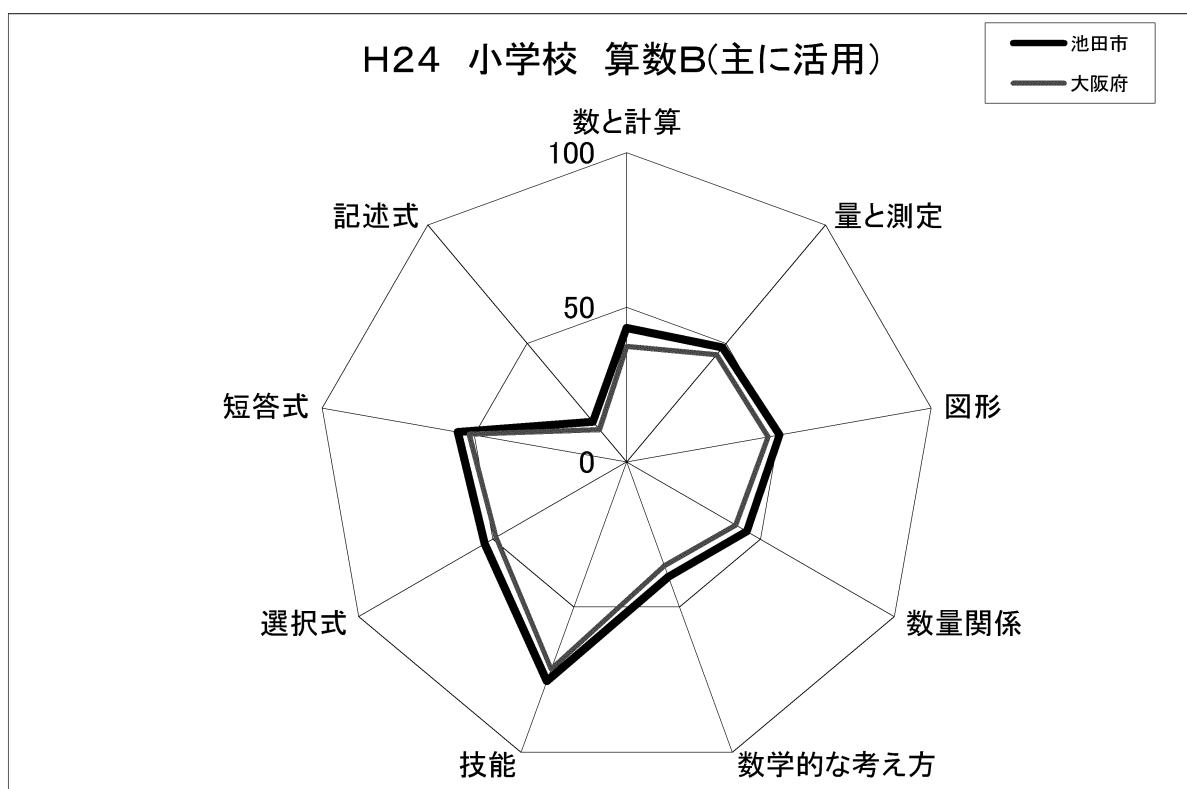
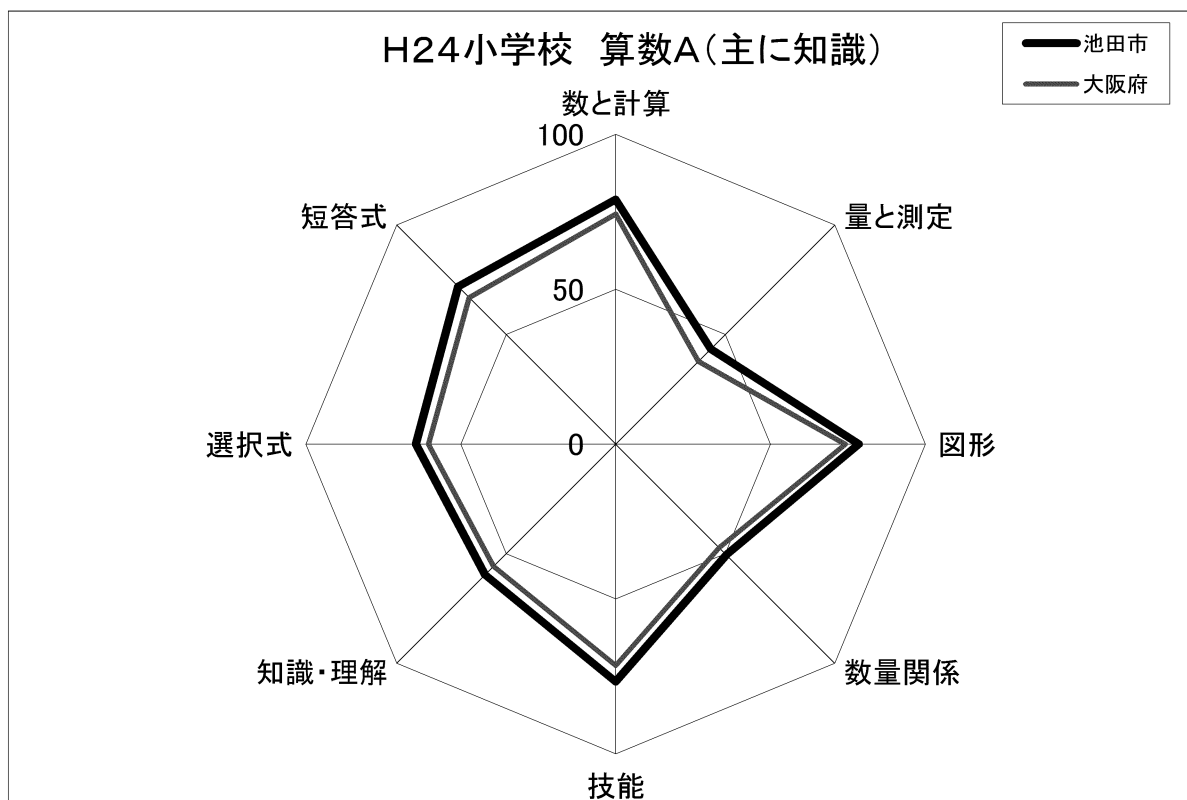
「数量関係」の領域では、表やグラフの活用について、家庭科等他教科とも関連させたりしながら定着を図ることが重要となる。また、一定の条件にあわせ、必要な情報を整理・選択する学習についても習熟を図る必要がある。また、「図形」の領域では、立体図形の体験的な活動や補助線等作図活動を系統的・連続的に指導していくことが求められる。

全般的に、文章の読み取りや考え方を論理的に記述することに課題がある。筋道を立てて考え、根拠を明らかにしながら、式や言葉を用いて説明する力が求められている。言葉を注意深く読み取る指導に留意し、思考、判断、推論する機会を多く設けることで、知識を活用する力をより一層伸ばすことにつながる。

(5) 小学校算数 正答数分布グラフ及びレーダーチャート



領域・観点・問題形式別 レーダーチャート



(6) 小学校算数科設問別結果概要

①算数A：主として知識

設問番号	設問の趣旨	領域	正答率	結果概要
1 1 (1)	$350 - 137 + 150$ を計算する	数と計算	78.3	3桁の整数の減法・加法の計算については、概ね理解できているが、9.4%の児童が加法を先に計算している。
2 1 (2)	$20 - 2.1$ を計算する	数と計算	83.7	位取りを行う整数と小数の減法の計算については、ほぼ正しく理解できている。
3 1 (3)	4×2.8 を計算する	数と計算	89.2	整数と小数の乗法の計算については、ほぼ正しく理解できている。
4 1 (4)	$\frac{1}{3} - \frac{1}{9}$ を計算する	数と計算	86.2	異分母の真分数の減法について、ほぼ正しく理解できている。
5 1 (5)	$\frac{4}{9} \div 2$ を計算する	数と計算	91.7	真分数と整数の除法について、ほぼ正しく理解できている。
6 1 (6)	$20 - 10 \div 2$ を計算する	数量関係	58.3	39.5%の児童が、減法から計算し、「5」と誤答している。四則が混合した式の計算に習熟することが必要である。
7 2 (1)	3つの数の共通の約数を選ぶ	数と計算	88.4	3つの数(12, 15, 18)の共通の約数について、ほぼ正しく理解できている。
8 2 (2)	0.37を分数で表す	数と計算	95.7	「100分の1の位」の小数を分数で表すことについて、ほぼ正しく理解できている。
9 2 (3)	25840を26000にした方法を選ぶ	数と計算	42.3	34.1%の児童が「百の位までの概数」にし、19.6%の児童が「千の位を四捨五入して概数」にする誤答があり、概数については、段階に応じて繰り返し学習する中で定着を図ることが求められる。
10 2 (4)	任意の数に0.8を加減乗除する計算のうち、結果がその任意の数より小さいものを選ぶ	数と計算	55.2	28%の児童が、任意の数に0.8を乗して、任意の数より小さくなることへの理解が不十分である。1より小さい小数を乗することへの理解に課題がある。

設問番号	設問の趣旨	領域	正答率	結果概要
11 3	分度器を用いて 180° を超える角度を測る	量と測定	39.2	53.9%の児童が、 130° と誤答している。 180° を超える角度の理解に課題がある。
12 4	正方形の半分の三角形と同じ面積の図形を選ぶ	量と測定	43.1	51.9%の児童が、等積とならない図形(ア、エ)を選択しており、対称の図形の認識に課題があり、類型問題への習熟が必要である。
13 5	面積と人数の関係で、正しい内容の文を選ぶ	量と測定	47.9	39.4%の児童が、 1 m^2 あたりの人数を求める立式について、面積を人数で除しており、1当たりの量の概念そのものの理解不足が見られる。
14 6 (1)	与えられた図形と合同な図形を選ぶ	図形	95.1	合同な台形を選ぶことについては、ほぼ正しく理解できている。
15 6 (2)	直方体を完成させるのに必要な図形を選ぶ	図形	77.2	18.4%の児童が、エと誤答しており、直方体の展開図の理解について、課題がある。面の構成要素や位置関係について具体物を用いて習熟させる必要がある。
16 7	円周率の求め方で正しいものを選ぶ	図形	63.1	26.9%の児童が、半径表記の式を選択している。直径と円周の長さについて、より体験的に習熟させる必要がある。
17 8	与えられた数量の組み合わせから1冊あたりの値を求め該当する項目を選ぶ	数量関係	68.4	19.8%の児童が、「ノートの重さ」と誤答している。表の作成や読み取り等、系統的に習熟させる必要がある。
18 9	33,000 キロメートルの6%を求める式をかく	数量関係	24.8	円グラフの割合を利用して、数量を求める問題である。百分率の理解とともに、グラフの読み取りについて、学習段階に応じて繰り返して指導する必要がある。また、13.4%の児童が無答であった。

(6) 小学校算数科設問別結果概要

②算数B：主として活用

設問番号	設問の趣旨	領域	正答率	結果概要
1 1 (1)	熱量を計算し、棒グラフをかく	数量関係	75.1	献立表を読み取り、熱量合計を計算し、棒グラフを書く問題であるが、概ね理解できている。
2 1 (2)	条件からおかずを選び、その理由を答える	数量関係	22.7	77%の児童が「ハンバーグ」を選択できているが、必要な熱量の読み取り等、根拠となる記述が困難である。記述式の問題への指導を段階的に繰り返し行う必要がある。
3 1 (3)	表から割合をもとめ、適切なグラフを選ぶ	数量関係	62.0	86.6%の児童が、主食・牛乳の割合は正答しているものの、主菜・副菜の割合で24.6%の児童が誤答している。表から割合を求めることに習熟が必要である。
4 2 (1)	階段状に積まれた積み木（同じ大きさ、形）の一部を移動させ、直方体のたて、横、高さを求める	図形	70.4	横や高さのみの誤答児童は5.2%であり、23.7%の児童は、設問の文章の読み取りに課題がある。文章を注意深く読み取る指導が必要である。
5 2 (2)	階段状に積まれた積み木（同じ大きさ、形）の一部をまとまりで移動させ、直方体になる組合せを選ぶ	図形	40.9	77.4%の児童が正答のイを選択しているものの、32.6%の児童が横の長さの足りないキを選択している。立体図形の体験的な活動を通して、空間図形の理解を深める指導が必要である。
6 2 (3)	立方体を作るのに必要な積み木の個数を求める	図形	26.7	積み木の3辺の最小公倍数が16cmになるという認識に課題が見られる。一辺が16cmの立方体を想像し、補助線等作図の反復した指導が必要である。
7 3 (1)	「農業で働く人の総数」の減り方について適切な内容を選ぶ	数量関係	68.1	29.5%の児童が、減り方が大きくなっていると誤答している。言葉の意味理解に課題があり、注意深く読み取る指導が必要である。
8 3 (2)	「60歳以上の人数」の変化について、適切な内容を選ぶ	数量関係	33.9	半数以上の51.6%の児童が、少しずつ増加していると誤答している。「農業で働く人」に関する提示グラフの持つ意味への理解が不足している。
9 3 (3)	「60歳以上の人数」の割合の変化の様子について答える	数量関係	12.4	半数以上の58.6%の児童が、「正しい」を選択している。文章の読み取りに課題があり、割合についての類型問題に対する習熟が必要である。

設問番号	設問の趣旨	領域	正答率	結果概要
10 4 (1)	値引き後の値段を求める式を選ぶ	数量関係	50.6	21.3%の児童がア ($300-0.2$) を、23.7%の児童がイ (300×0.2) を選択している。割合の意味理解を学習段階に応じて繰り返し指導することが必要である。
11 4 (2)	えんぴつ9本の値段と割引きが適用される10本の値段の差を求める	数量関係	53.4	設問の文章を読み取って、順に計算することに課題がある。7.4%の児童が無解答であり、文章読解に対する苦手意識が感じられる。
12 4 (3)	2つの店のえんぴつの本数と値段の関係をもとに、値段の差を求める	数量関係	25.8	49.9%の児童がA文具店と誤答しており、設問の文章を注意深く読み取ることに課題がある。体系的な文章問題への指導が必要である。
13 5 (1)	図形の性質をもとに、同じ道のりの図を選ぶ	図形	62.6	「向かい合う辺の長さは等しい」という平行四辺形の性質の理解に課題がある。
14 5 (2)	あ の花だんの情報（辺の長さと植えられているばらの数）をもとに、い に植えるばらの数を求める	量と測定	81.0	地図から必要な情報を読み取り、こみぐあいとの関係を、ほぼ正しく理解できている。
15 5 (3)	平行四辺形の性質を用いてばらの数の求め方を答える	量と測定	15.4	23.2%の児童が無解答であり、地図から必要な情報を読み取って平行四辺形の求積をすること、面積比較により論理的に説明することに課題がある。根拠を言葉や式で説明させる日常的な指導が必要である。

(1) 中学校国語分析と、課題及び指導改善のポイント

①国語A：主として知識

中学校国語Aの結果については、33問の設問中24問の正答数をピークとし、全体的に高位層寄りの分布になっている。

各領域については、「話すこと・聞くこと」では、会話文の中から要旨や話し方の特徴（工夫・長所など）を見いだす力は身についているが、会話の構成を把握する力に課題がみられる。様々な文章や資料を読む機会や、自分の意見を述べたり書いたりする機会の充実を図ることが必要である。

「書くこと」については、指示に応じた表現に書き直す力は身についているが、資料から読み取った内容を簡潔にまとめ、わかりやすく示すことに課題がある。

「読むこと」については、文中より必要事項を読み取る力は身についているが、文章全体の構成を把握する力に課題がみられる。また、古典の文章については、現代文（大意）との比較がしやすい出題であったので、多くの生徒ができていたが、注釈だけでも読み取れる力をつけることが必要である。

「言語事項」については、漢字の読みは大部分の生徒ができています。四字熟語の漢字の書き取りや書写における「行書」の特徴の習得に課題がある。

②国語B：主として活用

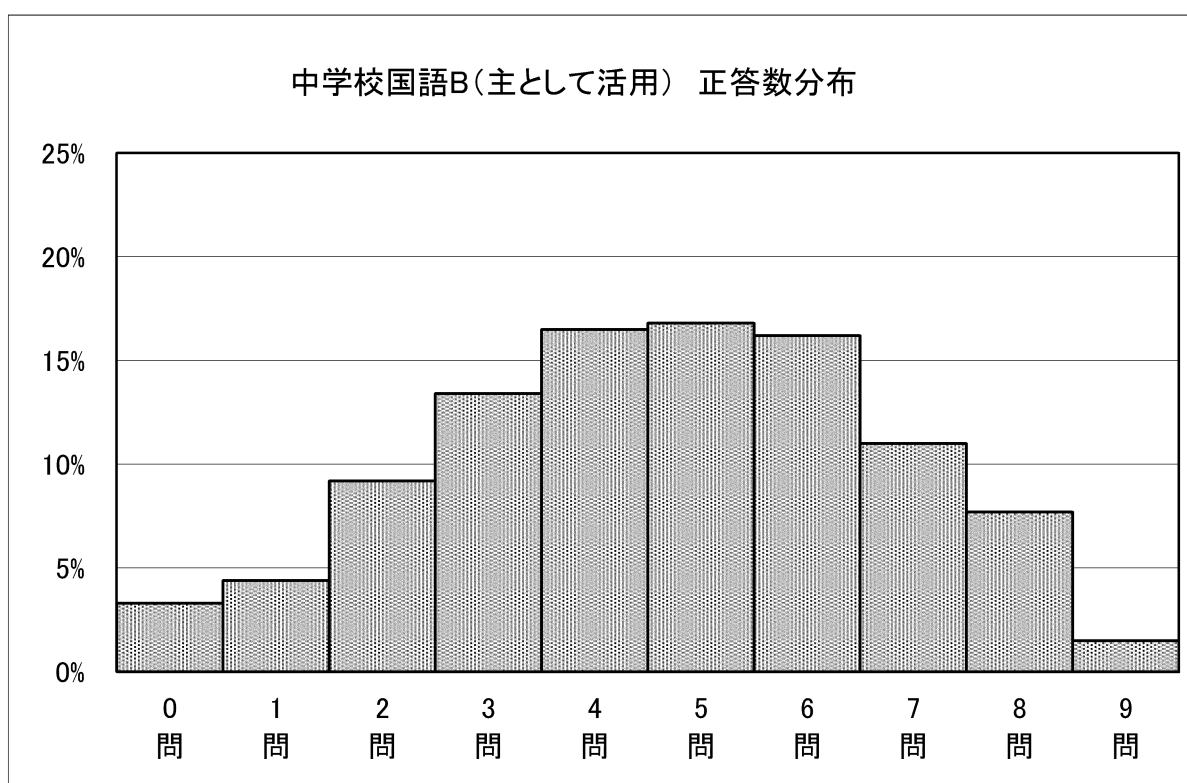
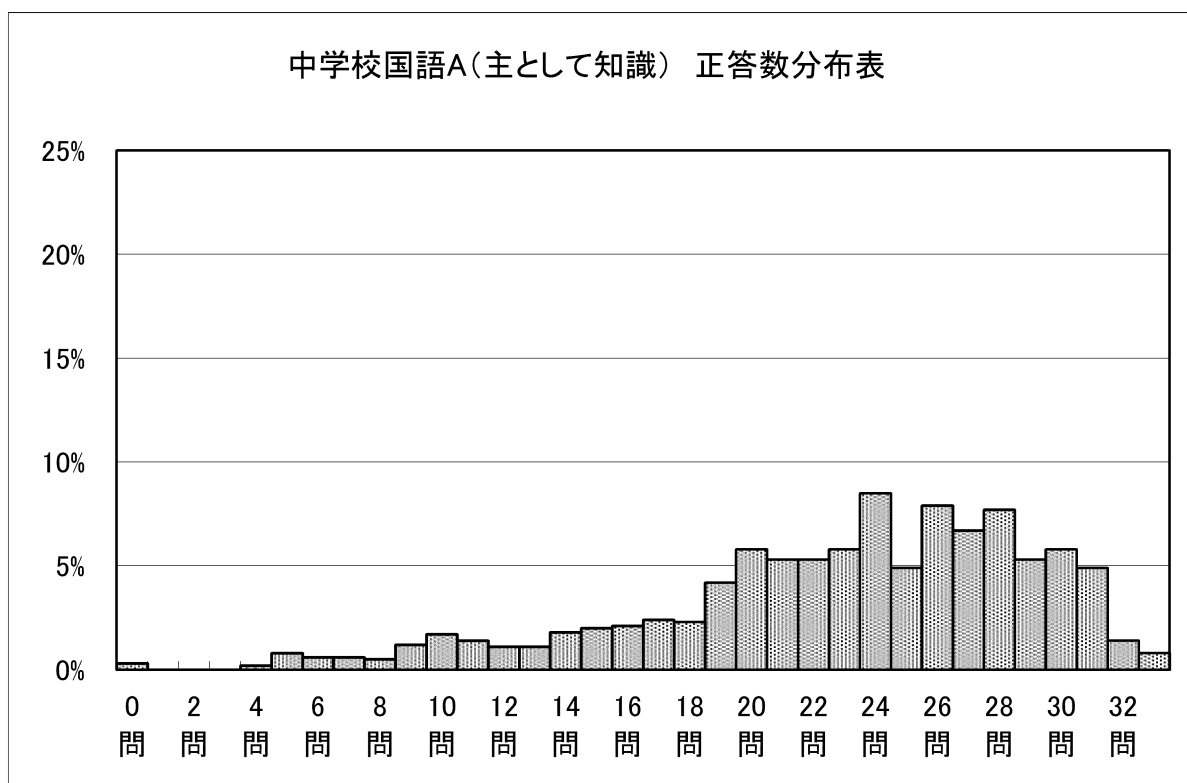
中学校国語Bの結果については、9問の設問中5問の正答数をピークとし、全体的に正規分布に近いカーブを示している。

「書くこと」については、無解答率が高く、長文読解や自由記述（論述）に不慣れた生徒が多いことがわかる。文章全体で考えると長くて分かりにくい文については、段落単位で考えさせたり、授業のまとめの時に自分の考えを簡潔に書かせたりするなど、日常の授業における工夫が必要である。

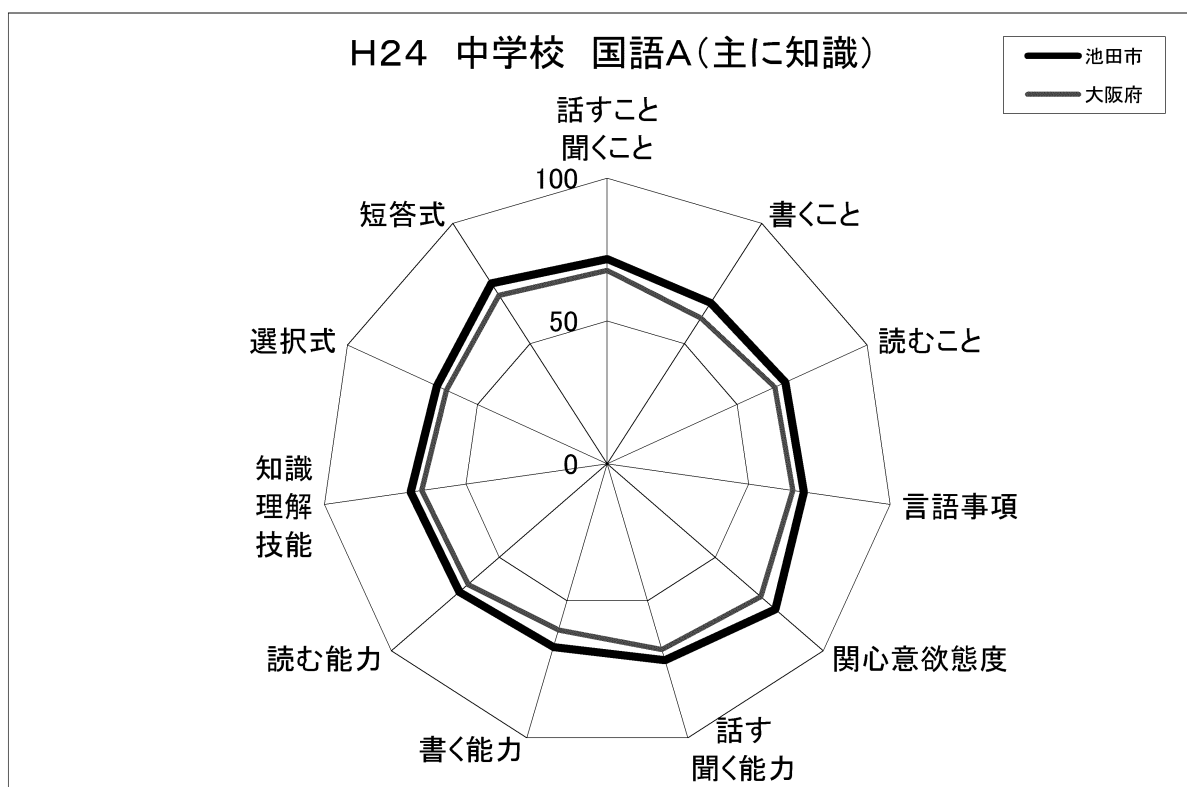
「読むこと」については、資料から必要な情報を読み取る力は概ね身に付いているが、何が問われているのかという出題の意図を理解し、資料を活用する力について課題がある。物語文では文章の展開に沿って、主人公の心情の変化やその原因となったできごと等を読み取るなどの言語活動の充実を図ることが必要である。

また、様々な文章や資料から必要な情報を的確に読み取ることや、読み取った内容や表現を要約・紹介したり、再構成したり、自分の知識や経験と関連付け、意味付けたり、自分の意見を書いたり、論じたりするなどの活動を取り入れた授業改善に取り組む必要がある。

(2) 中学校国語 正答数分布グラフ及びレーダーチャート



領域・観点・問題形式別 レーダーチャート



(3) 中学校国語科設問別結果概要

①国語A：主として知識

設問番号	設問の趣旨	領域	正答率	結果概要
1 1 ア	「古くから」が直接かかる箇所を選択する	言語事項	65.6	無解答率は0.6%と低いが、33.8%の生徒が誤答をしている。文の構成と文意の正確な理解が不十分である。
2 1 ニ イ	「絵画」と同じ組み立ての熟語を選択する	言語事項	65.9	無解答率は0.6%と低いが、33.5%の生徒が誤答をしている。漢字の意味を把握して熟語を理解することに課題がある。
3 1 ミ ウ	同じ意味を表す文を完成させる	言語事項	67.1	無解答率が5.0%と若干高い。問題の指示に沿って文章を工夫して書くことへの習熟が求められる。
4 1 四 エ	漢和辞典で調べたことをもとに、漢字の意味を選択する(光沢)	言語事項	83.2	文中における「沢」の意味を概ね理解している。「光沢」の「沢」の意味を「つや」と解答せず、「さわ、湿地帯」と誤答した割合が10.3%ある。
5 1 五 サ	国語辞典で調べたことをもとに、語句の意味を選択する(伸びる)	言語事項	52.0	無解答率は0.8%と低いが、誤答率が47.2%で、文中での語句の使われ方を押さえずに判断し解答している。
6 1 六 オ	空欄に当てはまる「深い味わいがあるさま」という意味の語を選択する	言語事項	75.0	「おもむき」の意味を多くの生徒が理解できている。
7 1 セ	空欄に入る適切な接続の言葉を選択する	言語事項	80.6	文脈を理解して、正しく接続詞を使うことが、概ねできている。
8 1 ハ カ	適切な漢字を選択する(生産)	言語事項	78.9	複数の同音の漢字の中から「生」という漢字を概ね選択できている。
9 1 ク ス	適切な漢字を選択する(採られ)	言語事項	48.9	無解答率は1.4%と低いが、49.7%の生徒が誤答をしている。漢字の意味を理解して適切に選択することに課題が見られる。

設問番号	設問の趣旨	領域	正答率	結果概要
10 1 十 キ	漢字を読む (特性)	言語事項	92.7	「特性」について概ね読めている。
11 1 十 ク	漢字を読む (練る)	言語事項	84.2	「練る」について概ね読めている。
12 1 十 ケ	漢字を読む (適度)	言語事項	98.2	「適度」について概ね読めている。
13 1 十 一 コ	漢字を書く (ヤクワリ)	言語事項	88.5	「ヤクワリ」という漢字を概ね書けている。
14 1 十 一 シ	漢字を書く (セイブン)	言語事項	64.3	「セイブン」という漢字を35.7%の生徒が書けていない。
15 1 十 一 ソ	漢字を書く (ソウイクフウ)	言語事項	33.5	「ソウイクフウ」という漢字を37.4%の生徒が誤答。無回答率は29.1%と高い。
16 2 ー	空欄に入る適切な副詞を選択する	読むこと	80.9	文の内容を理解して、適切な副詞を選択することは、概ねできている。
17 2 二	登場人物が悲しんだ理由を書く	読むこと	88.6	文章から概ね読み取ることができているが、無解答率が6.8%と若干高い。
18 2 三	文章全体の書き方の特徴として適切なものを選択する	読むこと	57.1	文章構成を読み取る力が弱く、41.5%の生徒が誤答をしている。文章表現の工夫について理解を深める必要がある。
19 3 ー	スピーチの工夫として適切なものを選択する	話すこと 聞くこと	71.3	文章の内容を多くの生徒が読み取ることができている。
20 3 二	文を論理的でわかりやすい話の構成に並べているものを選択する	話すこと 聞くこと	67.8	文章構成を読み取る力が弱く、30.8%の生徒が誤答をしている。読み手や聞き手を意識した分かりやすい文の作成への習熟が求められる。
21 3 三	スピーチを聞いてまとめたメモの空欄に入る言葉を書く	話すこと 聞くこと	82.4	文中から関係のある語句を読み取ることが概ねできている。

設問番号	設問の趣旨	領域	正答率	結果概要
22 4 一	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す (はへたり)	読むこと	72.7	多くの生徒が現代仮名遣いを理解しているが、無解答率が5.2%と若干高い。
23 4 二	「きだはしあがらず」の理由を選択する	読むこと	71.0	多くの生徒が文の「大意」から内容を読み取ることができている。
24 4 三	「わらはれた」の主語を選択する	読むこと	73.6	多くの生徒が文中より対象の語句を選択することができている。
25 5 一	「ちらしのよいところ」として適切なものを選択する	書くこと	72.7	多くの生徒がチラシの内容の長所について理解できている。
26 5 二	メモをもとに、ちらしの空欄に入る言葉を書く	書くこと	51.3	字数の指定がなく、半数の生徒ができていない。無解答率が9.9%と若干高い。
27 5 三	全校生徒に呼びかける表現に書き直す	書くこと	76.8	多くの生徒が問題の趣旨を理解できているが、無解答率が11.5%とやや高い。書くことへの習熟が求められる。
28 6 一	話し合いの参加者の話し方の特徴として適切なものを選択する	話すこと 聞くこと	62.2	無解答率は1.8%と低いが、36.0%の生徒が誤答をしている。
29 6 二	発言の仕方の良い点を説明しているものとして適切なものを選択する	話すこと 聞くこと	74.7	多くの生徒が発言内容の長所について理解できている。
30 7 一	段落が入る適切な位置を選択する	読むこと	44.9	それぞれの誤答を選択した率がほぼ同じであり、段落をきちんと意識して読むことに課題がある。
31 7 二	問題提起に対する答えを一文で書く	読むこと	74.4	多くの生徒が文中より読み取ることができているが、無解答率が16.1%と若干高い。
32 7 三	文章と資料とから読み取れないものを選択する	読むこと	53.7	「読み取れないもの」を選択するという問題形式には43.0%の誤答率となっている。
33 8	行書の特徴を説明した言葉の組み合わせとして適切なものを選択する	言語事項	32.8	行書の特長への理解に大きな課題があり、63.0%が誤答をしている。

(3) 中学校国語科設問別結果概要

②国語B：主として活用

設問番号	設問の趣旨	領域	正答率	結果概要
1 1 一	会話の空欄にあてはまる記事の見出しを選択する	読むこと	70.1	記事の内容への理解は概ね良好である。
2 1 二	二つの資料を比べて読み、一方の資料の空欄にあてはまる語句を抜き出す	読むこと	78.1	記事の内容を概ね読み取ることができている。
3 1 三	会話の内容に沿った一文を条件に従って書く	書くこと 読むこと	72.4	多くの生徒ができているが、無解答率が15.0%とやや高い。条件にしたがって書くことへの習熟に課題がある。
4 2 一	「この図」にあてはまるものを選択する	読むこと	57.1	無解答率は1.2%と低く、文章内容や資料を読み取ることが課題である。
5 2 二	「方言の伝わり方」を説明した適切な言葉を抜き出す	読むこと	16.3	資料と問題の意図を読み取ることが課題である。
6 2 三	方言を聞く機会が増えた理由を条件に従って書く	書くこと 読むこと	35.8	無解答率は20.7%と高く、少し長い文にまとめて書くことに対する苦手意識の克服が課題である。
7 3 一	音の違いを説明する文の空欄を完成させる部分を抜き出す	読むこと	20.2	長文の読み取りは、苦手とする生徒が多く、音の差異の意味がとらえにくい難題である。無解答率が20.7%と高い。
8 3 二	表現や構成の特徴として適切なものを選択する	読むこと	63.6	選択肢の中に誤答しやすいものが含まれていたが、文章全体の特徴については、よくできている。
9 3 三	文章に合う挿絵を選び、それを選んだ理由を条件に従って書く	書くこと 読むこと	48.6	字数制限を含めた3つの条件をすべて満たすことが要求され、45.2%が誤答をしており、無解答率も6.2%とやや高い。

(4) 中学校数学結果分析と、課題及び指導改善のポイント

①数学A：主として知識

中学校数学Aの結果については、全31問中28問正答をピークとする全体として高位層寄りの分布であった。

正負の数、文字式、方程式などの「数と式」領域では、計算問題をはじめ、全体的に理解できている。ただ、文字式の表す数量の意味解釈は、不十分な面もあり課題を残している。

「関数」領域についても、図、表、グラフからの読みとりは概ね良好であり、基本概念である「変化の割合」の正答率が低かったことが惜しまれる。基本事項の意味理解の徹底が求められる。

「資料の活用」領域については、全2問とも正答率は高く、指導の成果がみられる。

一方で、「図形」領域は、設問毎の正答率の高低がはっきりと分かれた。角度計算や平面立面図など、技能や直感で判断できる箇所はよくできているが、「3点から等しい距離にある点」や「点対称」の意味理解、また、特別な四角形の成立条件などに課題が見られる。

今後、計算力の一層の定着とともに、用語や定義の意味理解の徹底を図る必要がある。また、定義、公式、性質を単に当てはめるだけでなく、数学的活動を通して、複数の解き方を考えることや友達との意見交流等を通して、考え方を深めていく必要がある。

②数学B：主として活用

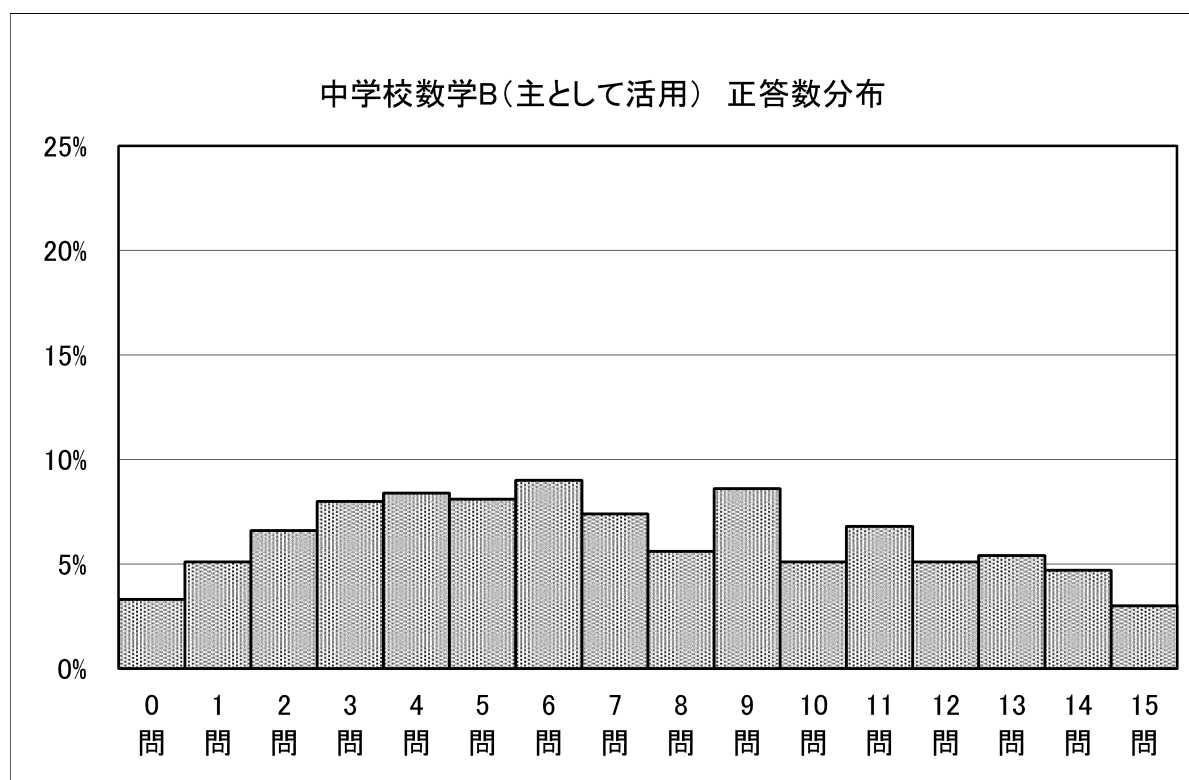
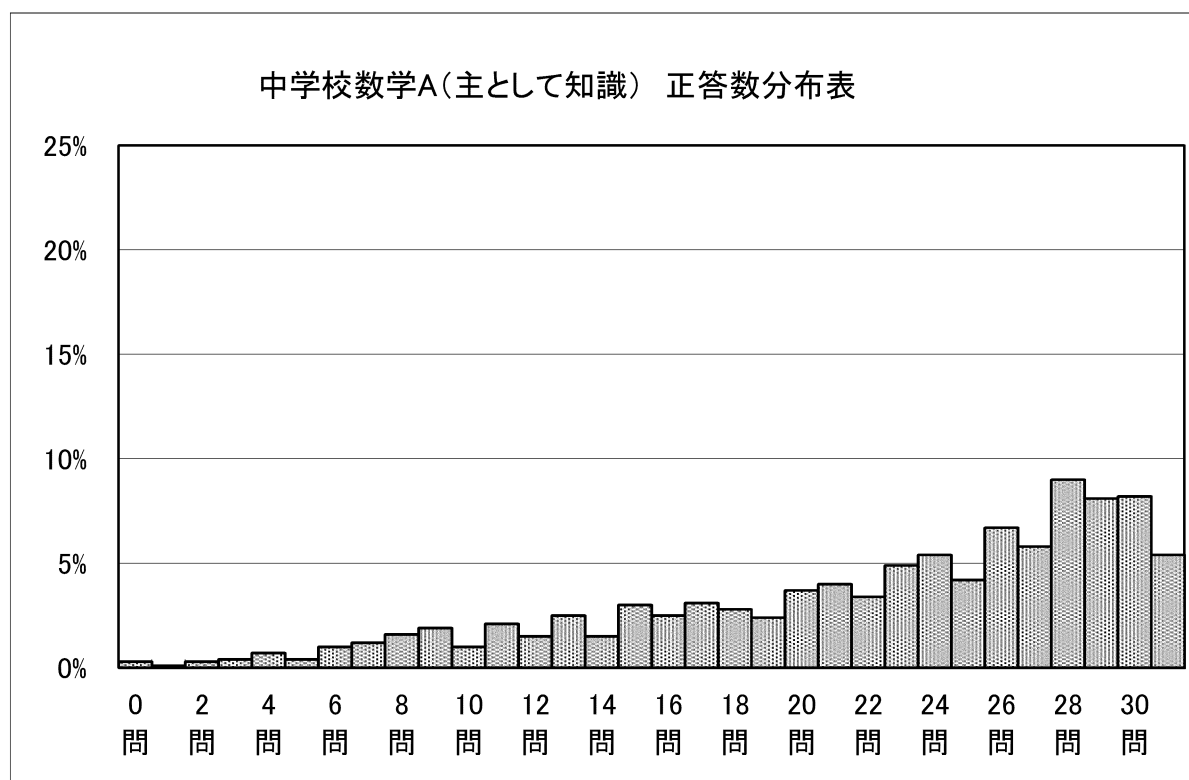
中学校数学Bの結果については、全15問のうち6問と9問の二つのピークを持つ下位部分に厚い分布となっている。

「数と式」領域は、数式処理（計算）については、結果は良好である。しかし、その後の数式の解釈や必要なことからの説明が不十分で正答とされないケースが多数あった。無答率も17.8%であり課題である。

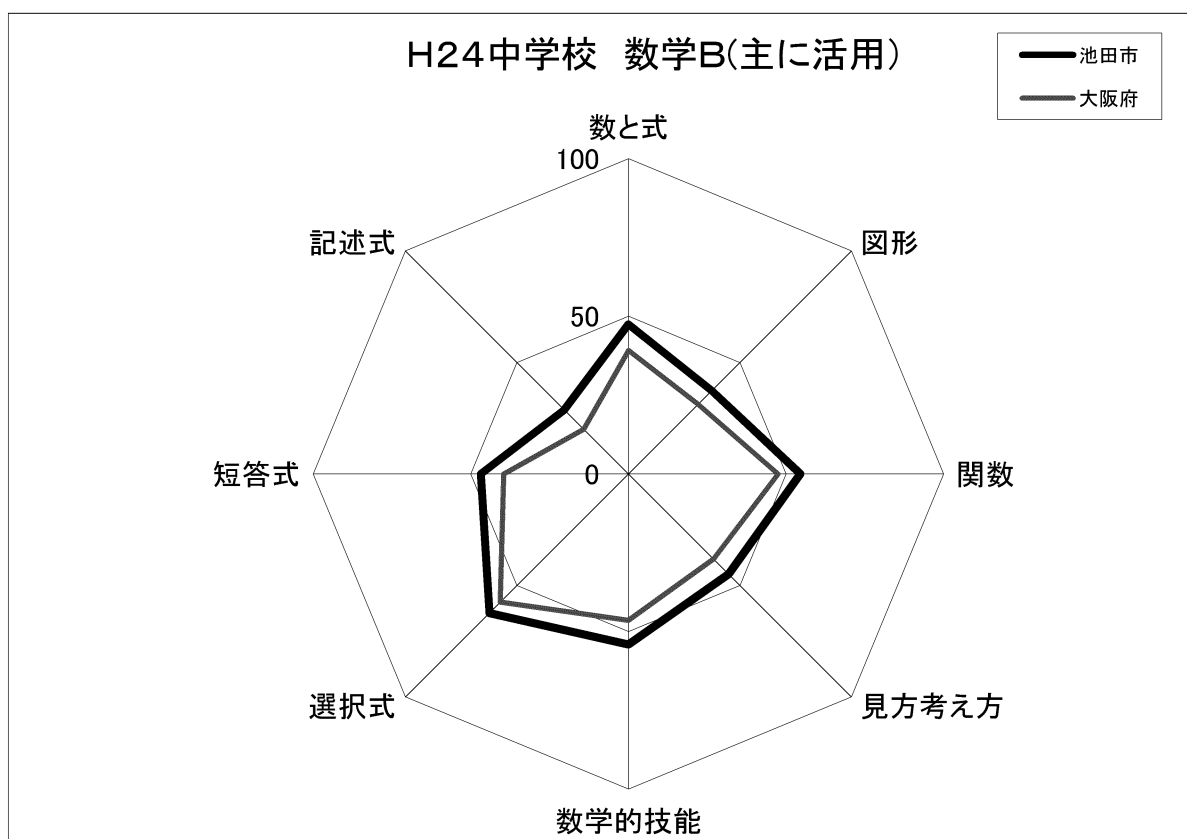
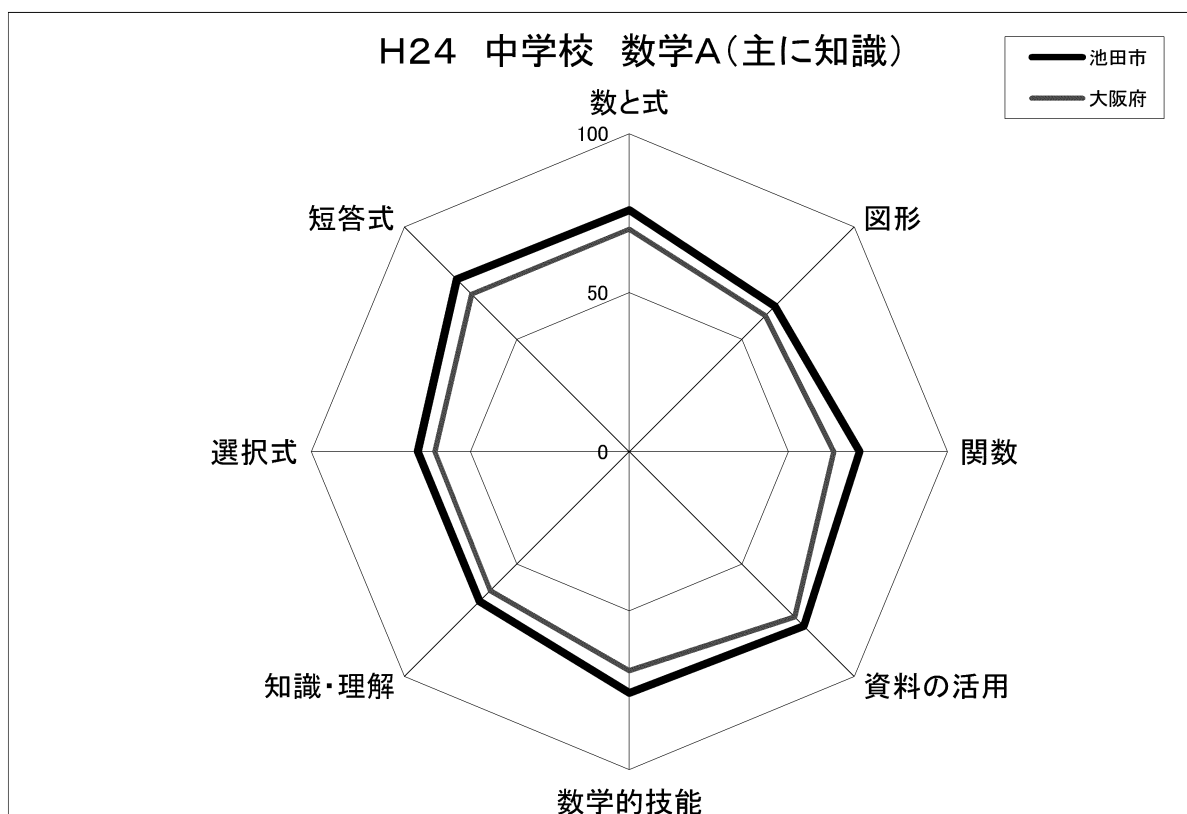
「関数」領域では、正答率が全体で50%以上あったが、問題により正答率の高低が分かれた。長い問題文および図表からその意味を正しくつかむことに課題があり、事象の正しい把握、数学的解釈、根拠の明示および数学的表現を使って分かりやすく説明していく力の育成が必要である。

「図形」領域では、難易度は高くはないが、知識の総合的な活用力が求められた。平面図形では、三角形の合同条件を正確に覚え、それらを課題の中で正しく適用できるよう、日々の授業で既習事項を復習として取り上げたり、新しい学習教材に関連させて指導したりすることが必要である。また、立体図形では、立体の求積公式を正しく理解させると同時に、公式を使って体積の大小比較の説明ができるようにしたい。そのために、説明手順の見通しを立てること、数式処理を行うこと、計算した数式の解釈をすること、および必要な説明ができるように、継続的な指導を進めたい。

(5) 中学校数学 正答数分布グラフ及びレーダーチャート



領域・観点・問題形式別 レーダーチャート



(6) 中学校数学科設問別結果概要

①数学A：主として知識

設問番号	設問の趣旨	領域	正答率	結果概要
1 1 (1)	$-4-6 \times 2$ を計算する	数と式	90.7	正負の数および四則の計算については、たいへん良好である。
2 1 (2)	$\frac{1}{4}-0.5$ を計算する	数と式	72.7	理解は良好であるが、誤答は分散している。小数および分数の処理に課題がある。
3 1 (3)	$-6x^2y \div 2xy$ を計算する	数と式	91.0	相当数の生徒がよく理解している。次数による誤りは2.4%である。
4 1 (4)	$3x-y+\left(x-\frac{1}{2}y\right)$ を計算する	数と式	64.5	分数を含むy項の処理におけるミスが4.8%である。無解答率が12.4%もあることは課題である。
5 2 (1)	$-4 < x < 3$ を満たす整数の個数を選ぶ	数と式	74.2	よく理解できているが、0を整数とみなしていないと見られる解答が22.1%あり、課題である。
6 2 (2)	「3を加えて5倍すること」を表す式を選ぶ	数と式	71.7	よく理解できているが、文字式のルールを考えず、文章に出る順に文字数字を組み立てている解答が16.8%あることは課題である。
7 2 (3)	$x=3, y=-2$ のとき $-4x-3y$ の値を求める	数と式	84.9	理解は良好であるが、誤答が分散している。苦手な生徒へ代入処理のていねいな指導が求められる。
8 2 (4)	$3x-y=5$ をyについて解く	数と式	72.9	よく理解できている。数値による解答が7.0%あった。意味理解の徹底を図りたい。
9 3 (1)	連立方程式 $\begin{cases} 3x+4y=1 \\ x-y=5 \end{cases}$ を解く	数と式	79.9	文字式、方程式の基本については、よく理解できている。
10 3 (2)	立てた方程式で、注目した数量を選ぶ	数と式	57.1	誤答が分散している。文字式の表す数量の意味（設問の場合 誰の何の量）を把握する習慣をつけたい。

設問番号	設問の趣旨	領域	正答率	結果概要
11 4 (1)	3点から等距離にある点の作図の方法を選ぶ	図形	50.8	垂直二等分線の性質および3点から等距離の意味について理解する必要がある。
12 4 (2)	直角二等辺三角形を180度回転させたとき、頂点Aが移動する点を選ぶ	図形	52.9	線対称との取り違えが12.9%など、誤答が分散している。点対称の意味を正しく捉える必要がある。
13 4 (3)	平面図と立面図から立体をよみとり、その立体の見取図を選ぶ	図形	87.0	立面図および平面図から立体の構成を考えることについて、よく理解できている。
14 5 (1)	二直線が平行になるための角の条件を選ぶ	図形	59.8	等しい角として対頂角を選んだものが31.5%。問題文の意味をきちんと捉えることが大切である。
15 5 (2)	平行線を利用して角の大きさを求める	図形	87.1	平行線および三角形の角の性質について、理解は良好である。
16 5 (3)	五角形の内角の和を求めるときの考え方を表す式を選ぶ	図形	69.0	日常より、数式が表す意味と図での設定状況を比較する習慣をつけたい。
17 6 (1)	証明をする上で必要のない記述を選ぶ	図形	53.1	問題図で対象となる三角形が重なっている場合、合同条件に必要な辺や角を見出すことに課題がある。
18 6 (2)	合同な三角形の対応する辺を答える	図形	80.4	合同な三角形の対応する辺や角を見出すことについては、概ね理解できている。
19 7 (1)	平行四辺形を特別な四角形にするために加える新たな条件を選ぶ	図形	40.6	誤答が分散しており、平行四辺形と特別な四角形の関係について理解の徹底が必要である。
20 7 (2)	平行四辺形の性質を記号で表したものを選ぶ	図形	66.4	日常の指導の中で、平行四辺形の性質を示す文と問題図から読み取れる式を結びつけることが求められる。
21 8 (1)	比例関係を示す表中の値を求める	数量関係 関数	89.1	表の中にある比例の特徴について、理解はたいへん良好である。
22 8 (2)	比例のグラフについて、 x の変域に対する y の変域を求める	数量関係 関数	66.1	最大または最小のどちらか一方の正解は8.2%である。無解答率は12.9%である。

設問番号	設問の趣旨	領域	正答率	結果概要
23 9 (1)	反比例の性質を表した記述を選ぶ	数量関係 関数	68.2	誤答が分散している。反比例の性質について理解の徹底を図る必要がある。
24 9 (2)	反比例 $y = -\frac{4}{x}$ のグラフを選ぶ	数量関係 関数	78.4	比例定数の符号ミスが11.7%、比例のグラフとしたものが8.5%あったが、概ねできている。
25 10 (1)	一次関数の式から、与えられた範囲における変化の割合を求める	数量関係 関数	41.2	無答が22.2%、増加量を求めたもの7.8%など変化の割合への意味理解が不十分である。
26 10 (2)	一次関数のグラフ上にある格子点の座標を1つ求める	数量関係 関数	70.6	多くの生徒がよくできている。グラフからの読み取りは容易であるので、無答11.1%については、ていねいな指導が求められる。
27 11 (1)	給水の途中で水を止めていた時間を求める	数量関係 関数	79.6	問題文の設定からグラフの読み取りがよくできている。
28 11 (2)	給水管Aから1分間に出る水の量を求める	数量関係 関数	79.5	グラフのから必要部分を読み取り、それをもとに正しく計算を行なうことができている。
29 11 (3)	給水の様子について正しい記述を選ぶ	数量関係 関数	78.9	正答率が高いが、グラフの傾きが4倍に変わったことから解答を見出せているのか検証の必要がある。
30 12 (1)	通学時間の分布を表したヒストグラムについて、20分以上かけて通学をする生徒の数を選ぶ	数量関係 資料活用	77.2	正答率が高いが、20～25人の階級だけを選択したものが9.7%あった。
31 12 (2)	2枚の硬貨を同時に投げるとき、2枚とも表が出る確率を求めるときの正しい考え方を選ぶ	数量関係 資料活用	78.0	正答率が高い。見かけ上同じでも、起こりうるすべての場合を数えることの更なる徹底を図りたい。

(6) 中学校数学科設問別結果概要

①数学B：主として活用

設問番号	設問の趣旨	領域	正答率	結果概要
1 1 (1)	レースの状況を示すグラフから、このレースが何メートルで競ったものか答える	数量関係 関数	77.6	問題文の設定およびグラフを正しく読み取することは、よくできている。
2 1 (2)	スタートしてから1分後に、先を泳ぐのは「たつやさん」か「けんいちさん」か選ぶ	数量関係 関数	73.4	問題の意図することをグラフから正しく読み取ることについては、概ねできている。
3 1 (3)	レースの結果、どちらが何メートル差で勝ったか答える	数量関係 関数	53.2	勝者を正しく指摘したが、その差を間違えたものが27.0%。勝者がゴールした時点の他者の位置をグラフから読み取ることができるようにしたい。
4 1 (4)	グラフの3つの交点において、二人の泳ぐ向きを表す図をそれぞれ選ぶ	数量関係 関数	73.1	正答率が高いが、2人が逆向き泳いでいることがわかりながら、反対にしたものが9.9%あった。
5 2 (1)	連続する3つの偶数の和が2の倍数になることを説明する	数と式	47.7	計算ができていても、必要な説明ができていない、または不十分なものが46.3%あり、無解答率が23.3%あることは課題である。
6 2 (2)	連続する3つの偶数の和が(1)以外で何の倍数になるか求める	数と式	55.3	「3」または「6」の一方だけを正答したものは22.9%あった。
7 2 (3)	連続する3つの偶数の和の考え方を活用した「数当てゲーム」の種明かしの説明を完成させる	数と式	39.5	AかBの一方だけ正答は28.6%あった。内容的には容易である。問題文を最後まで読みこなすことが求められる。
8 3 (1)	大小2つの正方形の頂点を結ぶ2本の線分の長さが等しいことの証明を完成させる	図形	44.7	記述が正しいのに合同条件選択の誤りが12.6%あった。直角三角形の合同条件の誤った適用が考えられる。
9 3 (2)	正方形CEFGを点Cで回転させたとき、 $\triangle BCG$ と $\triangle DCE$ の面積の和が最大になる角度を選ぶ	図形	52.0	図に必要な三角形を書き込めば直感で比較できる。問題の意図を十分に捉えることができなかったと考えられる。

設問番号	設問の趣旨	領域	正答率	結果概要
10 4 (1)	てんびんでつりあいのとれる重さを求める	数量関係 関数	35.1	「支点からの距離」と「重さ」の表に着目すれば、てんびんの性質を知らなくとも計算できるが、無解答率は23.3%であった。問題文から既習事項を適用する力をつけることが求められる。
11 4 (2)	「重さ」と「距離」の関係を説明した文を選び、関係式を求める	数量関係 関数	30.2	反比例を見抜いた選択肢「イ」を選んだものは正答も含めて56.7%であった。既習事項を使い、多様な問いかけ方に対応することが課題である。
12 4 (3)	おもりを4つまで使ってつりあいが取れる場所とおもりの個数を答える	数量関係 関数	39.0	反比例の関係を見抜く必要がある。反比例教材として「てんびん」を学習することで、反比例の見方が一層広がり理解が深まると期待される。
13 5 (1)	積み上げた4つのテニスボールの中心を結ぶ線がつくる立体の展開図を選ぶ	図形	51.2	底面が正三角形になることを理解できているものが77.6%あった。日常の学習の中で、図形の見えない部分を自分で補うことも課題として取り上げたい。
14 5 (2) A	テニスボールがぴったり収まる円柱の表面積の求め方を説明する	図形	22.4	文字を使つての円柱の体積計算およびその説明することに課題がある。正答扱いのうち説明も完全なものは8.9%。無解答は38.6%であった。
15 5 (2) B	テニスボールがぴったり収まる立方体と円柱の表面積を比較して大小を判断し、その考え方をかく	図形	16.1	立方体と円柱の表面積を比較して大小を判断し、その考え方を説明することに課題がある。正答扱いのうち完全な解答は8.3%。無解答は30.3%であった。

(7) 中学校英語結果分析と、課題及び指導改善のポイント

正答数におけるピークは 30 問中 18 問に見られるが、分布は全体的にやや右よりの拡散傾向を示す。

「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の全領域で大阪府の平均値を上回り、特に「聞くこと」の平均正答率は 65%となっているが、「読むこと」では 56%となり、「書くこと」については、37%と下降、平均無解答率も 20%に達している。また、評価の観点における、「理解の能力」「言語や文化についての知識・理解」に関する設問の正答率（57.1%、59.0%）に比べ、「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」や「表現の能力」に関する設問での正答率はいずれも 28.6%と落ち込んでいる。そして、問題形式では、記述式での正答率の低さが目立つ。

「聞くこと」つまり音声面での理解が良好であることは、小学校外国語活動の大きな成果と言える。相手が話すことを理解しようと意欲的に聞く姿勢がコミュニケーション活動では最も大切なことであり、やがて様々な英語表現を身につけていく中で「話すこと」への意欲や積極性も養われていく。さらに「読むこと」や「書くこと」にもつながるよう、小学校外国語活動から中学校英語学習への移行期に、正確に英語が書ける喜びを感じ、音声と文字の関係やことばの相違を意識しながら、綴りや文のきまりをていねいに学ぶ姿勢を養いたい。

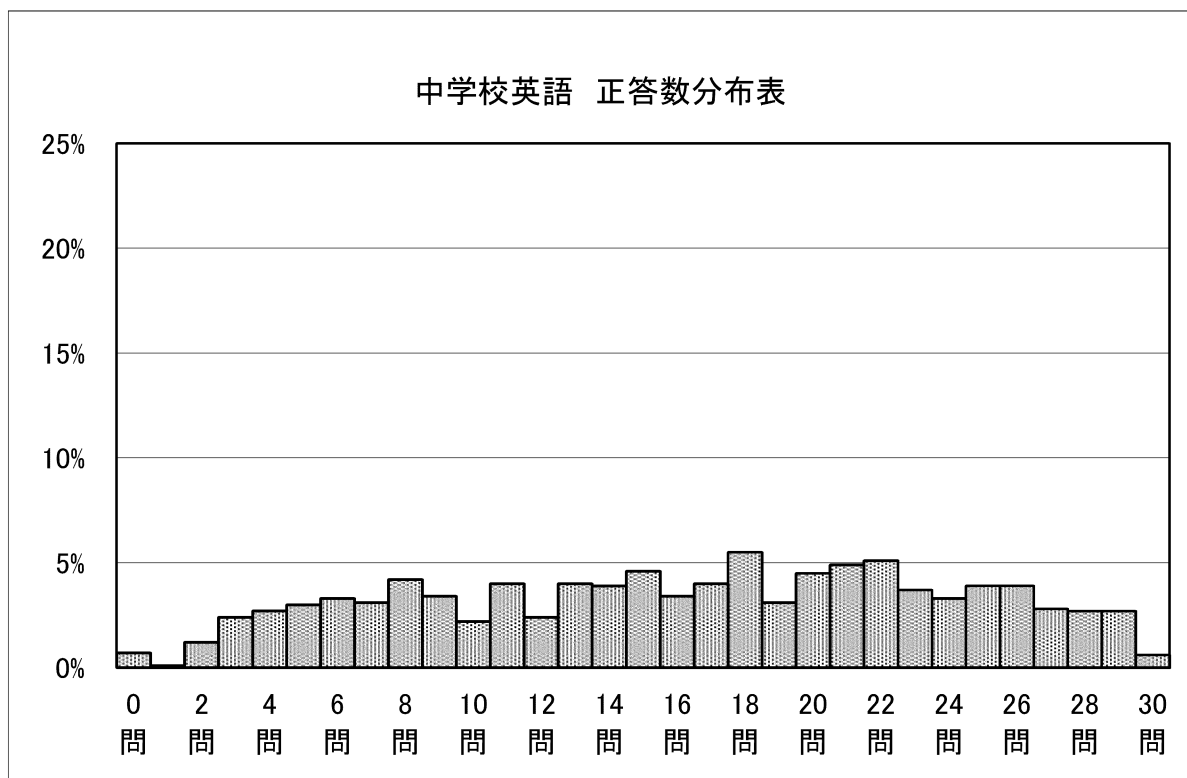
そして「聞くこと」や「読むこと」については、英語の意味を日本語に置き換えて理解することに留まらず、話し手や書き手の思いや意図・主張そして置かれている状況に思いをめぐらせ、自分が理解したこと、考えたことを誰かに伝えることを意識して話したり、書いたりして表現することにつながる学習をすすめることで、定着も深まり、学んだ英語が使える活用力の育成に結びついていく。

今回の調査では、複数の情報を総合的に判断して解答する設問や英語が教科書の題材の場面と異なる状況で使われる設問で課題が見られた。クラスルーム・イングリッシュをはじめ身近な語句や表現はもちろん、色々な英語を様々な場面で繰り返し使用していくことで、単なる暗記学習に陥ることなく、その英語が持つ本質的な意味を理解し、ことばへの関心と英語学習へのモチベーションを高め、活用力の向上につなげることができる。

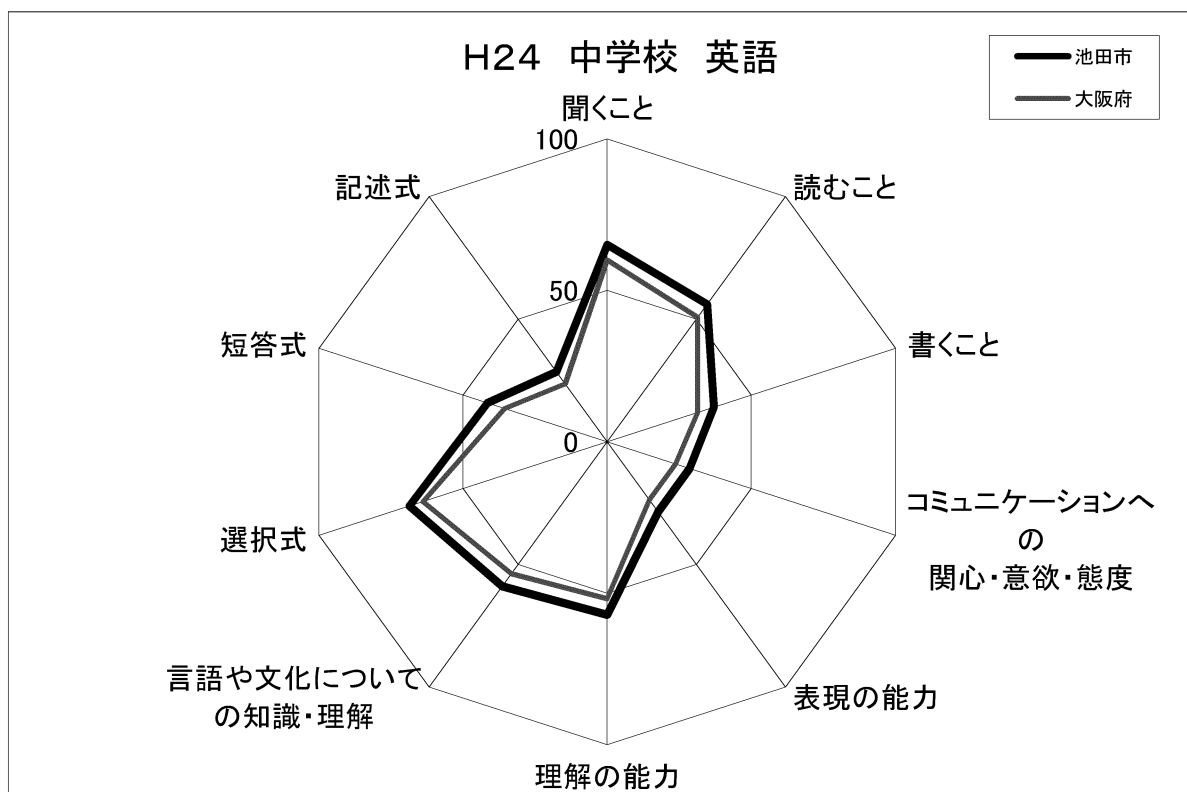
「書くこと」については、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」の各領域のバランスと相互のつながりを大切にしながら、学年・学期ごとにテーマや目標とする語数を定めて英文を書き、発表するような系統的な学習を通して、義務教育終了時に自分の思いや考えを英語で表現するような力が育成される。

英語においては、何より「継続は力なり」である。自らの英語コミュニケーション力向上へ意欲を持って日々の学習に励めるよう、学んだことが使える活動や目標を持って授業に取り組める家庭学習における課題への工夫も大切である。

(8) 中学校英語科 正答数分布グラフ及びレーダーチャート



中学校英語 領域・観点・問題形式別 レーダーチャート



(9) 中学校英語科設問別結果概要

①英語

設問番号	設問の概要	領域	正答率	結果概要
1 1 (1)	2人の会話を聞き、内容に対する質問の答えとなる絵を選択する(放課後について)	聞くこと	93.9	会話中の問答が、ほぼそのまま質問と答えになり、基本的な語句の聞き取りはたいへん良好である。
2 1 (2)	2人の会話を聞き、内容に対する質問の答えとなる絵を選択する(土曜日の予定)	聞くこと	91.9	2人の問答の流れDo you want to go swimming? No, I want to...への理解は良好である。
3 1 (3)	2人の会話を聞き、内容に対する質問の答えとなる絵を選択する(友人の誕生日)	聞くこと	56.1	聞き取れた英語の日付を明日が誕生日であるという会話内容と関連付けられなかった回答が目立つ
4 1 (4)	2人の会話を聞き、内容に対する質問の答えとなる絵を選択する(女の子の今夜の予定)	聞くこと	44.2	会話からテレビ視聴と宿題、夕食の時間関係を捉え、今夜の予定をイメージ化することに課題が見られる。
5 2 (1)	2人の会話を聞き、最後の発言に続く適切な応答を選択する (Is it new?への答え)	聞くこと	77.2	会話の話題や流れについての理解は良好で、基本的な会話表現は、ほぼ定着している。
6 2 (2)	2人の会話を聞き、最後の発言に続く適切な応答を選択する (Did he ...?に対する答え)	聞くこと	60.9	質問と答えは単純なもので、一般動詞の過去形の疑問文とその応答の仕方について、さらなる習熟が求められる。
7 2 (3)	2人の会話を聞き、最後の発言に続く適切な応答を選択する (How was it?に対する答え)	聞くこと	61.5	質問となる発言の意味理解が不十分である。様態を表すhowを使った疑問文への応答にさらなる習熟が求められる。
8 2 (4)	2人の会話を聞き、最後の発言に続く適切な応答を選択する (明日雨天の場合の予定)	聞くこと	34.8	会話内容、特にif it rains...とthe weather is going to be badの呼応を理解すること、語句や文法事項を活用することに課題がある。
9 3 (1)	短い英文の空欄に当てはまる適切な形の動詞を選択する (to buy)	読むこと	62.1	正しい英文になるよう、適切な動詞の形を選択するもの。副詞用法をはじめto不定詞の十分な理解・定着にやや課題がある。
10 3 (2)	短い英文の空欄に当てはまる適切な形の動詞を選択する (be動詞 were)	読むこと	82.5	意味の通る正しい英文になるよう、適切な動詞の形を選択するもの。be動詞の用法(過去進行形)への理解は良好である。

設問番号	設問の概要	領域	正答率	結果概要
11 4 ①	会話文を読み、文脈に即した与えられた文字で始まる単語を書く (morning)	読むこと 書くこと	46.9	直後にin the afternoonという表現があり類推できるが、時を表す基本的な語句は正確に用いられるよう習熟が課題である。
12 4 ②	会話文を読み、文脈に即した与えられた文字で始まる単語を書く (How about)	読むこと 書くこと	44.5	色々な場面で提案時に使う慣れ親しんだ表現であるが、様々な状況で適切に使用できるような活用力が求められる。
13 5 ①	会話文を読み、文脈に即した与えられた文字で始まる単語を書く (help)	読むこと 書くこと	60.3	定型表現May I help you?の一部を答えるもの。日常会話表現を様々な状況で適切に活用することにやや課題がある。
14 5 ②	会話文を読み、文脈に即した与えられた文字で始まる単語を書く (looks)	読むこと 書くこと	18.0	話題に沿って、印象を伝える表現(look)を適切な形(3単現)で用いるような活用には大きな課題がある(無解答率33%)。
15 6 (1)	会話文と資料を読み、質問の答えとなる英文にあてはまる適切な単語を書く (working)	読むこと 書くこと	26.7	登場人物の予定について、文を読んで正しく理解し、質問の形に応じてその内容を正しく表現するような活用には課題がある。
16 6 (2)	会話文と資料を読み、質問の答えとなる英文にあてはまる図書館名を書く	読むこと 書くこと	27.6	会話文と図書館開閉時間予定表といった非連続テキストから情報を捉え、解答を導き出すことに課題がある。
17 7 (1)	英文を読み、内容に関する質問への正しい答えの文になるように単語を書く (いつ)	読むこと 書くこと	60.6	やや長い英文(138語)を読んで内容を理解し、質問に対して必要な情報を正しく書き出すための意欲にやや課題が見られる。
18 7 (2)	英文を読み、内容に関する質問への正しい答えの文になるように単語を書く (天候)	読むこと 書くこと	58.2	天候を尋ねる英語表現を理解し、答えとなる箇所を本文から見出す読解力に課題が見られる。
19 7 (3)	英文を読み、内容に関する質問への正しい答えの文になるように単語を書く (期間)	読むこと 書くこと	31.9	英文をよく読んで、複数箇所から必要な情報を読み取って正しい答えを導き出す活用力に大きな課題がある。
20 8 (1)	招待状の情報から質問に対する適切な答えを選択する (誕生会の食事)	読むこと	75.9	招待状に記載されている基本的な語句への理解は良好である。
21 8 (2)	招待状の情報から質問に対する適切な答えを選択する (誕生会の時間)	読むこと	80.2	質問の意味(How long...?)を理解し、与えられた情報から答えとして適切なものを選ぶことは、よくできている。
22 8 (3)	招待状の情報から質問に対する適切な答えを選択する (招待状が送られた月)	読むこと	59.2	複数の情報(特に月日)を正しく理解し、求められていることについて考察して答えることにやや課題がある。

設問番号	設問の概要	領域	正答率	結果概要
23 9 (1)	英文を読み、質問の答えとして適切なものを選択する (どこに住んでいるのか)	読むこと	70.9	解答率も高く、登場人物と場所の関係に関して、ポイントを押さえた理解の状況については、概ね良好である。
24 9 (2)	英文を読み、質問の答えとして適切なものを選択する (来月の予定)	読むこと	79.0	解答率も高く、登場人物の予定や主な行動に関するポイントを押さえた理解の状況については、良好である。
25 9 (3)	英文を読み、質問の答えとして適切なものを選択する (来日の時期)	読むこと	69.3	解答率も高く、登場人物と場所の関係に関して、ポイントを押さえて理解することは、概ねできている。
26 10 (2)	語句リストと日本語メモから、インタビューで使う疑問詞で始まる英文を書く	書くこと	21.6	出身を尋ねる定型表現であるが、時制や前置詞を含め正確に書けるよう、様々な場面での活用が求められる(無解答率18.6%)。
27 10 (3)	前問と同様に、メモとリストから疑問詞で始まり、与えられた語句で終わる英文を書く	書くこと	30.7	Whenを使った過去の疑問文や動名詞と結びつく動詞について、活用を通じた習熟が求められる(無解答率18.4%)。
28 10 (4)	前問と同様に、メモとリストから疑問詞で始まり、与えられた語句で終わる英文を書く	書くこと	7.2	How manyを用いて時間の長さを表すような、語句を様々な場面で活用する学習方法の工夫が求められる(無解答率19.3%)。
29 10 (5)	前問と同様に、メモとリストから疑問詞で始まり、与えられた語句で終わる英文を書く	書くこと	41.8	音声で既知の表現も、文字で正確に再現できるよう、様々な場面・状況での学習による習熟が求められる(無解答率19.9%)。
30 11	与えられたテーマ(クラス紹介)について、ヒントを利用し、4語以上の英文を書く	書くこと	41.8	身近なテーマについて英文を書く機会を充実し、学年とともに内容や表現を深め、書くことについての意欲を高めたい(無解答率23.8%)。